

## 第1号議案

# 平成12年度社団法人京都私立病院協会 事業報告に関し承認を求める件

### 【総務部】

組織の現状と執行体制	4
A 会員関係	4
B 役員及び業務分担	5
C 第26回通常総会	7
D 会長・監事選挙	8
E 理事会	8
F 政策委員会	8
会員相互の連携と組織強化	
A 表彰	8
B 事務長会	9
C 婦長部会	13
D 薬局長会	16
E 栄養士部会	17
F 臨床検査部会	18
G 放射線技師部会	19
H 情報システム検討会	20
I 病院機能向上対策委員会	20
J 地区会議	21
K 新春会員懇親会	21
L 創立36周年記念式典	22
広報活動および情報サービスの充実	
A 京都私立病院報	22
B 創立35周年記念誌	23
C 私病協情報サービス	23
D 感染症対策に関する広報活動	23
E 協会ホームページ	23
F その他の広報活動	24
病院職員の確保対策への取り組み	
A 養成事業	24
B 医療従事者無料職業紹介事業への取り組み	24
病院団体との交流	
A 近畿病院団体連合会	25

B 全国病院団体連合	27
C 中央における病院団体	27
京都府内における医療団体との連携	
A 京都府医師会	28
B 京都府病院協会	28
C その他	28
行政への対応	
A 京都府	29
B 京都市	30
関連団体との連携	31
職員人事(平成13年4月1日現在)	
A 京都私立病院協会	31
B 京都府保健衛生専門学校	31
C 京都府病院協同組合	32
D 京都府病院厚生年金基金	32
E 京都中央看護専門学校	33

## 【医制部】

医療制度の検討	
A 病院をとりまく情勢	34
B 医療制度検討委員会	35
C 感染症対策委員会	35
医療保険・関係諸法	
A 入院基本料等基準・施設基準	37
B 医療保険担当理事会議	38
C 京都府医師会との保険医療懇談会	38
D 政管健保生活習慣病予防健診指定医療機関問題	39
E 特別の療養環境の提供に係わる調査(室料差額実態調査)への協力	39
F 生保指定医療機関に対する個別指導への立ち合い	40
G 診療報酬委員会	40
介護保険	
A 介護保険への取り組み	41
B 介護保険委員会	41
C 介護報酬委員会	42
D ケアマネジャー準備委員会	43
救急・休日・時間外診療体制の推進	
A 京都府下における二次病院群輪番体制	44

B 京都府救急医療情報システム	46
C 京都府周産期医療情報システム	46
救急医療をめぐる問題への取り組み	
A 救急医療委員会	47
B 救急搬入事故対策委員会	47
在宅医療等への取り組み	
A ホームヘルパー養成事業	49
B 京都S K Yサービス研究会への参画	50

### 【学術研修部】

京都病院学会	
A 第35回京都病院学会	51
B 第36回京都病院学会の開催にむけて	52
教育・研修	
A 教育訓練初級コース	53
B 看護卒後教育	53
C 保健医療管理者養成講座	56
D 医療事故防止研究会	56
E 在職者向けIT訓練講座	57
F 医療経営セミナー	58

### 【経営部】

A 民間病院に対する補助制度への対応	59
B 入院環境整備委員会	59
C 感染性廃棄物処理問題委員会	60
D 薬事委員会	60
E 購買担当者会議	62
F 融資斡旋	62

### 【厚生部】

A 第36回病院対抗野球大会の開催	64
B 第23回病院対抗女子バレーボール大会	64

### < 参考 >

京都保健衛生専門学校	66
京都府病院協同組合	71
京都府病院厚生年金基金	72
京都中央看護婦養成事業団	74

## 【総務部】

### 組織の現状と執行体制

#### A 会員関係

1	会員数	平成13年3月31日現在		
		会 員		144 施設
		特別会員		25 施設
	職員数			約28,000 名
2	病床数	平成13年3月31日現在		
		会 員	一 般	18,932 床
			結 核	191 床
			精 神	6,031 床
			老 健	351 床
			計	25,505 床
		特別会員		147 床
3	会員組織名称変更			
	松ヶ崎病院	松ヶ崎記念病院		平成12年4月
	清和台病院	綾部ルネス病院		平成12年9月
	西大路病院	医療法人西大路病院		平成12年10月
	渡辺医院牧診療所	渡辺病院		平成12年11月
4	入 会			
	介護老人保健施設陽生苑			平成12年4月
	渡辺医院牧診療所			平成12年7月
	修学院病院			平成12年11月
5	退 会			
	大塚外科医院			平成12年12月
6	物 故 者			
	大塚 千秋	大塚外科医院院長		平成12年5月30日
	清水 三郎	川越病院会長		平成12年12月8日

## B 役員及び業務分担

### 1 役員

会長	武田隆男(武田病院)	副会長	大槻秧司(亀岡病院)
副会長	大澤直(大澤病院)	副会長	清水紘(嵯峨野病院)
副会長	吉川順介(吉川病院)	副会長	中野種樹(長岡病院)
理事	秋山俊二(蘇生会総合病院)	理事	板坂勉(宇治病院)
理事	出射靖生(京都回生病院)	理事	大野研而(京都民医連中央病院)
理事	梶並稔正(西京都病院)	理事	河端一也(新河端病院)
理事	久野成人(久野病院)	理事	栗岡成人(城北病院)
理事	小森直之(桑原病院)	理事	清水鴻一郎(清水病院)
理事	清水正啓(愛生会山科病院)	理事	清水幸夫(シミズ病院)
理事	戸津崎茂雄(京都南病院)	理事	中野博美(京都きづ川病院)
理事	松井道宣(京都九条病院)	理事	松本眞一(堀川病院)
理事	真鍋克次郎(八幡中央病院)	理事	山口孝男(第二岡本総合病院)
理事	吉川聰(宇治黄檗病院)	理事	吉田多美(協会事務局)
監事	伊藤誠一(伊藤病院)	監事	相馬秀臣(相馬病院)
監事	坂本正寿(坂本・森田法律事務所)		

### 2 業務分担

#### 1) 政策委員会

武田隆男、大槻秧司、大澤直、清水紘、  
吉川順介、中野種樹、板坂勉、吉田多美

#### 2) 総務部

部長/大澤直 副部長/板坂勉  
庶務/板坂勉、吉川順介、中野種樹、  
山口孝男

経理・労務/板坂勉、山口孝男

#### 職種・職務別組織

理事長・院長会 - 大澤直

医師部会 - 大澤直

事務長会 - 山口孝男

婦長部会 - 大澤直

薬局長会 - 河端一也

放射線技師部会 - 小森直之

臨床検査部会 - 大野研而

栄養士部会 - 清水幸夫

#### 地区別組織

京都市内 - 吉川順介、清水鴻一郎

北部地区 - 大槻秧司

南部地区 - 真鍋克次郎、中野博美

広報担当/中野種樹、栗岡成人、吉川聰、  
梶並稔正、久野成人

私病報編集委員会 - 中野種樹、栗岡成人、  
吉川聰、梶並稔正、久野成人

情報システム担当/中野種樹、小森直之、  
河端一也

情報システム運営委員会 - 中野種樹、  
小森直之、河端一也

病院の質、機能向上担当/板坂勉、  
秋山俊二、戸津崎茂雄

病院機能向上対策委員会 - 板坂勉、  
秋山俊二、戸津崎茂雄

無料職業紹介事業 / 板坂 勉、秋山俊二  
医療従事者無料職業紹介事業運営委員  
会 - 板坂 勉、秋山俊二  
情報開示委員会 - 大澤 直、板坂 勉、  
秋山俊二、戸津崎茂雄、  
松井道宣、坂本正寿

涉外 /

全般 - 大澤 直  
精神病院協会 - 吉川 聡  
全国病院団体連合 - 武田隆男  
日本病院会 - 武田隆男  
全日本病院協会 - 清水 紘  
近畿病院団体連合会 - 武田隆男  
近畿病院団体連合会委員会 - 武田隆男、  
大槻稔司、大澤 直、清水 紘、  
吉川順介、中野種樹

### 3) 医制部

部長 / 清水 紘 副部長 / 吉川順介  
地域医療担当 / 清水 紘、吉川順介、  
中野博美、清水幸夫、松本眞一  
救急医療担当 /  
救急医療委員会 - 吉川順介、  
中野博美、真鍋克次郎、清水幸夫  
救急搬入事故対策委員会 - 中野博美  
京都府交通事故医療連絡協議会 -  
吉川順介、中野博美  
京都府救急医療情報システム運営懇  
談会 - 清水 紘、  
血液製剤の使用に関する懇談会 -  
吉川順介  
二次病院群輪番担当 / 京都市 - 清水幸夫  
南山城 - 真鍋克次郎  
京都市休日急病診療所 / 理事会 - 清水 紘  
運営委員会 - 松本眞一

周産期医療 / 清水 紘  
京都府周産期医療協議会 - 清水 紘  
医療保険担当 / 清水 紘、山口孝男、  
出射靖生、大野研而、中野博美、  
吉川順介、小森直之  
府医師会との懇談会 - 清水 紘、  
出射靖生、中野博美  
診療報酬委員会 - 清水 紘、山口孝男  
政府管掌健康保険生活習慣病予防健診担当  
/ 清水 紘、小森直之  
介護保険担当 / 清水 紘、大槻稔司、  
板坂 勉、大澤 直、出射靖生、秋山俊二  
介護保険委員会 - 清水 紘、  
大槻稔司、板坂 勉、大澤 直、  
出射靖生、秋山俊二  
介護報酬委員会 - 清水 紘、久野成人  
在宅福祉サービス研究会 - 清水 紘、  
大槻稔司、板坂 勉、大澤 直、  
出射靖生、秋山俊二  
府医師会との懇談会 - 清水 紘、  
大槻稔司、大澤 直  
感染症対策担当 / 清水正啓、戸津崎茂雄、  
中野博美、大野研而、河端一也、  
小森直之  
感染症対策委員会 - 清水正啓、  
戸津崎茂雄、中野博美、大野研而、  
河端一也、小森直之  
在宅医療担当 / 大澤 直、板坂 勉、  
中野種樹、松本眞一、久野成人  
ホームヘルパー養成事業運営委員会 -  
大澤 直、板坂 勉、中野種樹  
ホームヘルプサービス事業検討委員  
会 - 大澤 直、板坂 勉、中野種樹  
京都SKYセンター担当 - 松本眞一、

- 久野成人
- 病院医療制度検討委員会 / 清水 紘、  
山口孝男、板坂 勉、栗岡成人、  
清水鴻一郎、戸津崎茂雄、  
松井道宣、松本眞一
- 医療関連サービス研究 - 中野種樹  
薬事委員会 - 吉川順介  
購買担当者会議 - 中野種樹  
入院環境整備委員会 - 吉川順介、  
山口孝男  
感染性廃棄物処理問題委員会 -  
中野種樹  
税務政策担当 / 中野種樹、山口孝男
- 4 ) 学術研修部  
部長 / 大槻秧司 副部長 / 大澤 直  
京都病院学会担当 / 大澤 直、清水 紘、  
真鍋克次郎、吉川 聡、小森直之、  
梶並稔正、久野成人  
教育研修担当 / 大槻秧司、松井道宣、  
吉川 聡、清水正啓  
初級者教育訓練 - 大槻秧司、  
清水正啓  
看護卒後教育検討委員会 - 松井道宣  
中堅幹部職員研修 - 吉川 聡  
保健医療管理者養成講座 - 大槻秧司  
保健医療管理者養成講座運営委員会 -  
大槻秧司、板坂 勉、中野種樹  
医療事故防止研究会 / 大槻秧司、  
真鍋克次郎
- 6 ) 厚生部  
部長 / 吉川順介 副部長 / 中野種樹  
厚生事業担当 / 河端一也、栗岡成人、  
梶並稔正、久野成人  
野球大会実行委員会 - 梶並稔正、  
久野成人  
バレーボール大会実行委員会 -  
梶並稔正、久野成人  
新クラブ設立準備委員会 - 河端一也、  
栗岡成人
- 5 ) 経営部  
部長 / 中野種樹 副部長 / 山口孝男  
経営管理担当 / 中野種樹、山口孝男、  
吉川順介
- 7 ) 京都保健衛生専門学校  
部長 / 大澤 直 副部長 / 松本眞一、  
栗岡成人、清水 紘、中野種樹
- 8 ) 京都中央看護婦養成事業団  
部長 / 大槻秧司 副部長 / 清水 紘  
板坂 勉、清水幸夫、中野博美、

## C 第26回通常総会

平成12年5月24日 於：京都全日空ホテル

- 議 事 第1号議案 11年度(社)京都私立病院協会事業報告に関し承認を求める件  
第2号議案 11年度(社)京都私立病院協会歳入歳出決算に関し承認を求める件  
第3号議案 12年度(社)京都私立病院協会事業計画に関し承認を求める件  
第4号議案 12年度(社)京都私立病院協会歳入歳出予算に関し承認を求める件

第5号議案 監事の選出に関する件  
審議の上、全議案が承認可決された。

#### D 会長・監事選挙

任期満了に伴う会長・監事選挙を平成13年4月4日を選挙日として2月13日に公示。候補者を3月5日に締め切った結果、会長に武田隆男、監事に相馬秀臣・大川原康夫の立候補があり、定数以内の候補者数であったため、その時点で当選が確定した。

#### E 理事会

毎月第1、第3水曜日を定例日として開催。

協会の執行機関として定款及び理事会規定に基づき正確な情報と資料をもとに審議を尽くし、その役割を果たすよう努めた。

第13期 第18回理事会(平成12年4月5日)～第39回(平成13年3月21日) 計22回開催

#### F 政策委員会

月始の理事会終了後開催を原則とし、理事会で政策送りとなった案件についての審議や、重要な問題の基本方針について検討をおこなった。

第11-18回(平成12年4月19日)～第19回(平成12年5月17日)

第12-1回(平成12年6月7日)～第11回(平成13年4月10日) 計13回開催

### 会員相互の連携と組織強化

#### A 表彰

国や地方自治体より依頼のある各種表彰の推薦に対して推薦をおこない、会員関係では以下の方々が表彰された。

救急功労者厚生大臣表彰

相馬秀臣(相馬病院名誉顧問=三団体推薦)

京都府救急医療功労者表彰

個人の部/船越 肇(京都下鴨病院理事長=当協会推薦)

大橋一郎(京都大橋総合病院理事長)

団体の部/金井病院(当協会推薦)

京都府保健医療功労者表彰

個人の部/平林正巳(なぎ辻病院院長=当協会推薦)

団体の部/医仁会武田総合病院(当協会推薦)

京都府看護功労者表彰

山岡清子（前共和病院総婦長＝当協会推薦）

公衆衛生事業功労者表彰

武田隆男（武田病院会長＝当協会推薦）

## B 事務長会

平成12年度においても事務長会は、医事・医制・経営・労務の4部会が、有機的な連携を保ちながら、それぞれの専門分野において積極的な活動を展開してきた。

### 1 常任委員会

常任委員会は、事務長会の中枢機関として、事務長会独自の企画はもとより、理事会はじめ協会内各委員会からの要請事項に対応するなど、多数の案件を検討し処理してきた。また、刻々と変化する医療情勢を分析しながら情報交換なども活発に行い、病院医療が直面する諸問題に対し、事務サイドから解決を求める努力を重ねてきた。

理事会方針に基づいた各種事業にも積極的に参画し、多くの委員会等に代表を派遣するなど全面的な協力体制をとってきた。

< 役員 >

委員長 山口孝男（第二岡本総合病院）

副委員長 秋山俊二（蘇生会総合病院）、石原良次（京都南病院）

太田 互（太田病院）、中谷泰幸（なぎ辻病院）、永井佑二（京都九条病院）

常任委員 上田正紀（日本バプテスト病院）、大西三津夫（愛生会山科病院）

大槻 均（医仁会武田総合病院）、岡部睦美（第二京都回生病院～平成12.6）

奥田 守（高雄病院）、恩田啓一（三菱京都病院）、加藤恵三（賀茂病院）

岸本啓介（京都民医連第二中央病院）、小山忠典（吉川病院）

齊藤嘉甫（田辺中央病院）、佐藤 修（京都桂病院）

塩見一郎兵衛（福知山紅葉丘病院）、須野原修二（洛和会音羽病院）

田中秀和（京都博愛会病院）、土居 皓（松ヶ崎記念病院）

中江陽一（京都東山老年サナトリウム 平成12.7～）

中野種樹（長岡病院）、狭間由浩（園部丹医会病院）

船越 繁（愛寿会同仁病院）、堀井成彦（ユニチカ中央病院）

吉岡久雄（洛陽病院 平成12.7～）

< 各委員会への派遣委員 >

- ・病院医療制度検討委員会 土居 皓、堀井成彦
- ・薬事委員会 加藤恵三、狭間由浩
- ・救急搬入事故対策委員会 岸本啓介、齊藤嘉甫

- ・私病報編集委員会 大西三津夫、奥田 守
- ・入院環境整備委員会 石原良次、永井佑二、上田正紀、佐藤 修、恩田啓一
- ・職業紹介事業運営委員会 太田 互
- ・ホームヘルパー養成事業運営委員会 中谷泰幸
- ・ホームヘルプサービス事業検討委員会 中谷泰幸
- ・病院機能向上対策委員会 小山忠典
- ・感染性廃棄物処理問題委員会 永井佑二、吉岡久雄

a 定例委員会

毎月第2金曜日を定例日とし、9回開催。毎回事前に正副委員長会議を開き、委員会の運営等に関して協議している。今期は10・2月の2回の委員会を拡大委員会とし、全会員の事務長に出席を呼びかけ、多数の参加をいただいた。委員会では、種々の企画立案をはじめ、情報・意見交換を行い、私病協ならびに各病院の抱える諸問題の解決に努めた。また委員会での主な協議確認事項については、必要に応じ会員病院の事務長に報告した。

b 総 会 5月11日 於：都ホテル

当期の総会では、平成11年度の事業報告ならびに平成12年度の事業方針について承認し、活動方針を確認した。また総会終了後、4月になされた診療報酬改定に関する動向について説明会を持った。

c 全体会議 12月8日 於：京都ブライトンホテル

年末の懇親会を兼ねて、全体会議を開催した。これまでの常任委員会および各部会活動の中間報告をおこなった。また、消費税問題をとりあげ、将来予想される消費税増税の議論と医療界の損税、さらには事業税「外形標準課税」について講演を聞き、将来に備えた。

d 研修会

1) 11月7日 於：京都リサーチパーク・バズホール(医制部企画)

参加者 / 194名(婦長部会と合同)

「医真会における医療事故低減への取組み」

講師 / 浦上秀一(医真会八尾総合病院副院長)

2) 12月8日 於：京都ブライトンホテル(事務長会全体会議) 参加者 / 73名

「医療と消費税～消費税増税議論と医療界の損税」(経営部企画)

講師 / 石井孝宣(日本病院会顧問・公認会計士)

3) 3月23日 於：京都府医師会館(労務部企画) 参加者 / 77名

「2000年度賃金・労働条件実態調査集計報告」

「人事考課制度の事例報告」

医療法人恵仁会「医療法人における人事考課制度の導入」

長岡病院「能力主義人事制度における目標管理」

三菱京都病院「企業立病院にみる人事考課制度」

e 研修旅行 1月25、26日

先進的な施設見学を通しての研修と、会員事務長間の親睦を図ることを目的に実施している研修旅行。平成12年度は、ユニークかつ健全な経営方針で発展を続けている福岡記念病院を訪問し、大変参考になった。

見学先 / 福岡記念病院 (福岡県福岡市)

宿泊 / 福岡ビューホテル 参加 / 18名

f 他府県病院協会事務長会との交流

1) 近畿病院団体連合会事務長会

・10月25日 於：グリーンヒルホテル明石 (兵庫県)

山口委員長、石原・太田・中谷副委員長出席

・3月16日 於：エスタシオン・デ・神戸 (兵庫県)

山口委員長、永井・中谷副委員長出席

2) その他

兵庫県私立病院協会事務長合同研修会

・9月9日 於：神戸ポートピアホテル (兵庫県)

山口委員長、永井副委員長出席

2 部会活動

a 医事部

1) 部長 石原良次

部員 / 上田正紀、大槻均、中江陽一、狭間由浩、船越繁

2) 開催日 6/9 7/14 9/8 10/13 11/10 1/12 2/14 4/13 計8回

3) 主な活動

保険外(自費)徴収実態調査の実施について検討。常任委員ならびに医療事務専門委員所属病院29施設を対象に実態調査を行い集計結果を協力病院に送付した。

減点・査定状況の把握と分析。年々強化される審査の動向を確認する目的で、常任委員会内部で詳細な分析調査を実施し、検討した。

会員からの医療事務に関する照会に対し、専門委員との連携により適切な情報提供に努めた。

医療事務専門委員会議の運営

委員 / 福井満弘 (京都桂病院) 大倉明 (愛生会山科病院) 岡田幸夫 (桑原病院)

小川比佐男 (京都南病院) 小川勝 (洛和会音羽病院) 北村由美子 (丹後中央

病院) 高田浩之(武田病院) 坪田美也子(京都民医連中央病院) 村田昌史  
(京都博愛会病院)

専門委員会議 8/8 9/19 10/23 11/15 2/14 計5回

・平成12年度医療事務勉強会の開催

11月15、16日 於:コミュニティ嵯峨野 参加57名

- ・その他請求事務に関わる会員病院からの照会については、専門委員を通じてその都度対応した。

b 医制部

1) 部長 永井佑二

部員/恩田啓一、佐藤 修 須野原修二、土居 皓、堀井成彦

2) 開催日 6/9 7/14 9/8 10/13 11/10 1/12 2/9 3/9 4/13 計9回

3) 主な活動

私病協の医制部での検討項目に関する事務サイドからの研究、特に医療保険・介護保険制度の関わり・調整等について、情報の早期入手に努めるとともに分析を行った。

第四次医療法改正の内容を検討し、諸情勢の分析を行った。

資格喪失後の受診(返却レセプト)など医療機関側の責に帰さない事例を検討した。

事務長会・婦長部会合同研修会を企画。11/7に「医療事故低減」をテーマとした講演会を実施した。

c 経営部

1) 部長 秋山俊二

部員/大西三津夫 加藤恵三 岸本啓介 齊藤嘉甫 塩見一郎兵衛

2) 開催日 6/9 7/14 9/8 10/13 11/10 1/12 2/9 4/6 4/13 計9回

3) 主な活動

1999年度分病院経営分析調査の実施とその集計 ~今回も協力病院に対して解説を添付し結果を報告した。

外形標準課税対策について検討し、理事会に報告したほか、経営管理講演における講演内容の企画につなげた。

事務長会全体会議における経営管理講演会「消費税増税議論と医療界の損税」の企画を行った。

医薬分業の現状(薬価の現状と今後の見込み)について情報交換した。

部門別原価計算について研究を行い、結果を4月の常任委員会において報告したほか、会員に提供した。

d 労務部

1) 部長 中谷泰幸

部員 / 太田 互、奥田 守、小山忠典、田中秀和、中野種樹、吉岡久雄

2) 開催日 6/9 7/14 9/8 11/10 1/12 2/9 2/27 3/9 4/13 計9回

### 3) 主な活動

2000年度分賃金・労働条件等実態調査の実施とその集計

8月実施 協力86病院 集計表の頒布開始 3月23日

今年度も引き続きケアマネジャー・ホームヘルパー等に関する調査も実施し、3月の労務管理研修会において調査結果を踏まえた報告会を企画した。

セクシャル・ハラスメントの防止に向けて検討し、10月の拡大常任委員会で労働局雇用均等室から説明を受ける場を設けた。

人事評価問題に関して具体的事例をもとに研究を行い、3月23日に労務管理会を開催して事例報告をおこなった。

2000年冬期・夏期一時金および春の賃金改定に関する情報収集をおこない、結果を集約し、常任委員会に報告した。

### 3 地区活動

#### a 南部地区事務長会

宇治・城陽・八幡・久御山・綴喜地区の19会員を対象とする南部地区事務長会が、地域固有の話題をはじめ、病院経営に関わる様々な問題について協議・情報交換した。

4月19日 事務長会 於：宇治市産業会館

#### b 北部地区事務長会

中丹、丹後地区の会員14施設を対象とする北部地区事務長会が、経営管理に関する情報交換や北部地区固有の問題について協議・情報交換した。

2月16日 事務長会 於：たかさご(丹波篠山)

## C 婦長部会

当部会では原則として毎月第4週に定例会を開催した。定員を設けずに、会員病院の看護管理者であれば誰でも参加出来るオープン参加形式をとり、毎回平均40名前後の参加があった。定例会では、各委員会および各研修会、関連事業所からの報告および情報交換を行った。

また相互研修では他部門から講師を招いてのミニ講義、議題に基づいての全体情報交換、グループ討議と様々な形式を取り入れ、そのまとめを私病報に報告した。

### <役員>

部会長 木下明美(三菱京都病院)

副部会長 高橋美津子(京都博愛会病院)、山名千代(西陣病院)

西岡和子(京都武田病院)、山本雅子(宇治病院)

担当理事 大澤 直

1 総会

5月25日 於：ホテルグランヴィア京都 出席 / 83名

2 定例会

開催日 / 5/25 6/30 7/21 9/28 10/31 12/12 1/26 2/28 3/29 4/24 計10回

3 委員会活動

a 総務委員会

婦長部会運営の全般的企画・調整の役割を荷っている。定例会での相互研修の集約ならびに報告についても当委員会が行なった。

委員長 木下明美

委員 中田笑子（京都南病院～平成12.10）、高橋美津子、山名千代、西岡和子、加藤きみ子（醍醐病院）、前坂外喜子（宇治黄檗病院）、山本雅子、澤井美智子（第二岡本総合病院）

開催日 7/4 8/3 10/6 11/7 12/12 1/26 3/5 4/6 5/8 計9回

b 教育推進委員会

婦長および看護職員を対象とした年3回の研修会（管理・看護・一般）の企画・運営にあたりとともに、卒後教育の運営にも協力した。

委員長 西岡和子 副委員長 - 前坂外喜子

委員 高橋美津子、新井靖子（都倉病院）、石崎友里子（桃仁会病院）、小川百合子（シミズ病院）、畠中一栄（大羽病院）

原ムツ子（愛寿会同仁病院）、佐々木美恵子（NTT西日本京都病院）、村瀬浩子（京都ルネス病院）、森洋子（長岡京病院）、澤井美智子、高尾幸栄（堀川病院平成12.6～）、塩見千恵子（京都保健衛生専門学校）、池西静江（京都中央看護専門学校）

開催日 6/30 7/21 9/28 10/31 12/12 2/28 3/29 4/24 計8回

c 看護業務検討委員会

本年度は、「卒後3年目における評価基準」の作成に向けて検討を行った。

委員長 山名千代 副委員長 中田笑子

委員 中川美代子（西京都病院）、宮崎聖之（京都民医連中央病院）、小東美幸（京都地域医療学際研究所附属病院）、藤田都司（北山病院）、高岡みな子（京都回生病院）、木佐貫照美（新河端病院平成12.6～）

開催日 6/30 7/21 9/28 10/31 12/12 2/28 3/29 4/24 計8回

d 福利厚生委員会

婦長相互の親睦を目的として、研修旅行および年数回の懇親会の企画を行った。

委員長 山本雅子 副委員長 加藤きみ子  
委員 宇多タエ子(六地蔵総合病院) 西城嘉子(京都桂病院)  
加藤泰子(京都南西病院) 天達節子(長岡河上病院12.6~)

開催日 6/30 7/21 9/28 10/31 12/12 2/28 3/29 4/24 計8回

#### 4 研修会

a 一般教養研修会 12/7 中間管理者研修 の一般研修と兼ねて開催  
「魅力づくりへのアドバイス」

講師/中原藤子(教育コンサルタント)

於:京都府医師会館 参加者/169名

b 看護研修会 2/21

「痴呆の看護(介護)を考える」

講師/谷口政春(堀川病院・顧問)

於:京都府医師会館 参加者/152名

c 管理研修会 11/7 事務長会と共催

「医真会における医療事故低減への取り組み」

講師/浦上秀一(医療法人医真会八尾総合病院・副院長)

於:京都リサーチパーク(協賛:大阪ガス) 参加者/194名

#### 5 研修旅行

8月25、26日 見学先/北京医科大学薬科漢方センター

宿泊地/上諏訪温泉(浜の湯) 参加者/33名

#### 6 懇親会

a 総会懇親会 5/25 於:ホテルグランヴィア京都 参加者/83名

b 新春懇親会 1/26 於:京都ロイヤルホテル 参加者名/69名

#### 7 各種委員会への委員推薦

a 私病報編集委員会 大滝久枝(第一岡本病院) 倉田洋子(吉川病院)

b 卒後教育検討委員会 高橋美津子、西岡和子、新井靖子、石崎友里子、  
小川百合子、佐々木美恵子、畠中一栄、原ムツ子、  
前坂外喜子、村瀬浩子、森 洋子、塩見千恵子、池西静江、  
澤井美智子、高尾幸栄

c 病院医療制度検討委員会 木下明美、中田笑子

d 京都府病院協同組合企画委員会 福嶋喜代子

e 無料職業紹介事業運営委員会 高橋美津子

f 保健医療管理者養成講座運営委員会 高橋美津子

g 入院環境整備委員会 中川美代子、木下朋子(京都下鴨病院)

- h 病院機能向上対策委員会 増井榮(医仁会武田総合病院)、山名千代
- i ホームヘルパー養成講座運営委員会 加藤きみ子
- j ホームヘルプサービス事業検討委員会 高尾幸栄(堀川病院)
- k 介護保険委員会 高橋美津子、加藤泰子
- l 感染症対策委員会 大滝久枝、進藤美智子(京都大橋総合病院)
- m 感染性廃棄物処理問題委員会 福田さよこ(久野病院)、須川裕子(西京病院)
- n 医療事故防止対策研究会 高岡みな子(京都回生病院)

## D 薬局長会

発足18年目を迎え、薬局長としての資質向上を目指す活動に積極的に取り組んできた。内容的にもますます充実し、研修の場として定着している。

当会の行う研修会が日本病院薬剤師会生涯研修制度の単位が付与される研修会として認定を受けてから6年が経過し、会員薬局長の励みとなっている。また、会員外の参加が可能になり、他の薬剤関連の職能団体と共に研修を受け学習する場となった。

### 1 運営委員会

a 委員長 森下菊雄(京都南病院)

副委員長 大西敏之(武田病院)、妻谷多美代(宇治徳洲会病院)

委員 出口奈三子(小澤病院)、長谷部みどり(吉祥院病院)

古川玉枝(日本バプテスト病院~平成12.6)、村上恒男(三菱京都病院)

山口京子(京都武田病院)、藤澤享江(大羽病院平成12.7~)

担当理事 河端一也

b 開催日 5/18 6/15 7/14 9/21 10/19 11/16 12/8 1/18 2/15 3/15 4/13

計11回

### 2 全体会議の開催

#### a 研修会

第64回 7月14日 於：京都府医師会館

テーマ / 「腎機能低下時における薬剤の使用」「腎機能低下時における薬剤の使用」

講師 / 戸津崎茂雄(京都南病院・院長)

参加者 / 32施設 39名

第65回 12月8日 於：京都府医師会館

テーマ / 「中毒一般の対処法」

講師 / 大石泰男(大阪府三島救命救急センター・医長)

参加者 / 34施設 42名

第66回 4月13日 於：京都府医師会館

テーマ / 「注射剤調剤の実務報告会」

講師 / 名徳倫明(市立池田病院・副薬剤部長)

松本ゆう子(元金井病院・薬局長)

参加者 / 32施設35名

## E 栄養士部会

疾病治療の一部である食事療養の重要性と役割を再認識し、管理栄養士・栄養士・調理師の資質の向上と栄養管理部門の業務改善に向けた活動に取り組んできた。

今年度も、「充実した栄養管理」を目標に掲げ、昨年に引き続き食中毒予防対策や栄養食事指導を実践するための研修会を開催してきた。また、平成8年に編集・発行した「栄養管理帳票マニュアル」の改訂作業にも着手している。

当部会では今後とも多角的な観点から様々な取り組みを積極的に企画・開催していく。

### 1 運営委員会

委員長 日野千恵子(京都民医連第二中央病院)

副委員長 前田佳予子(金井病院) 四方達二(京都南病院)

委員 金江加代子(長岡病院) 中森京美(宇治病院)

林 京子(京都専売病院) 山根宏子(洛和会音羽病院)

担当理事 清水幸夫

開催日 6/20 7/18 9/19 10/17 11/10 12/19 1/16 2/20 3/13 4/17 計10回

### 2 主な活動

#### a 研修会

5月16日 於：京都府医師会館 参加者 / 81名

テーマ / 「病院調理室の衛生管理～食中毒予防講演と実践事例報告～」

講師 / 光田謙治(京都市保健福祉局保健衛生推進室生活衛生課食品衛生係長)

藤長廣幸(日清医療食品㈱、宇治黄檗病院勤務)

小林智裕(京都民医連第二中央病院)

11月10日 於：京都府医師会館 参加者 / 64名

テーマ / 「栄養食事指導のためのカウンセリング入門」

講師 / 高田みぎわ(平安女学院短期大学講師)

#### b 運営委員相互研修

- ・栄養食事指導のためのカウンセリング
- ・入院時食事療養( )の基準運用上の留意点について
- ・医療機能評価における栄養管理部門での取り組み
- ・栄養管理部門における医療事故防止対策

- ・電子カルテの現状について

## F 臨床検査部会

当部会では臨床検査技師として幅広い知識を習得することにより、更なる資質の向上を目指した目的に活動を行っている。今年度も病院検査室の運営にまつわる諸問題や感染症といった周辺分野についてもテーマとして取り上げるとともに、今年度はとりわけ IT 推進の流れを受けて、職員の情報処理能力の向上を目的とした研修会を開催してきた。

運営委員会では、ますます厳しさを増す医療環境、検査室運営について討議し、業務の改善に向けた啓発活動を行いつつ、京都府臨床衛生検査技師会との連携にも努めている。また、委員会で検討した議事については、その内容を「検査部会 Fax 通信」として取りまとめ、毎月会員病院の検査室宛に送信している。

### 1 運営委員会

委員長 / 塩貝邦夫 (三菱京都病院)

副委員長 / 国永清光 (蘇生会総合病院) 松林英樹 (京都南病院)

委員 / 石田洋一 (京都保健衛生専門学校) 豊山浩祥 (京都桂病院)

早川勇人 (医仁会武田総合病院) 林 雅弘 (相馬病院)

福井英人 (堀川病院) 山口俊朗 (京都民医連中央病院)

担当理事 / 大野研而

開催日 6/1 7/6 9/7 10/5 11/2 12/7 1/11 2/1 3/1 4/5 計10回

### 2 主な活動

#### a 研修会

10月7日 於：京都保健衛生専門学校 参加者 / 23名

テーマ / 「臨床検査のためのインターネット講座」

講師 / 小森敏明 (京都府立医科大学附属病院臨床検査部)

4月21日 於：京都保健衛生専門学校 参加者 / 53名

テーマ / 「Excel活用のための研修会」

講師 / 石橋潤一郎 (日本医学臨床検査研究所情報システム部システム課)

#### b その他の取り組み

- ・検査部門における医療事故防止対策の検討
- ・感染症対策委員会「院内感染から見た MRSA 対策フォーラム」への協力
- ・Fax 通信 No.9 ~ No.19

## G 放射線技師部会

会員施設において放射線業務に携わる職員を対象に放射線技術の研鑽・院内の業務の効率化を図り、併せて相互に親睦・交流を勧めることを目的として発足した。途中名称を改めてからも12年目を迎え活動内容も益々充実し、例年通り放射線技師に限定せず、幅広い内容、職種を対象とした講演会の企画、開催を行うとともに、レントゲンフィルムの保管に関するアンケート調査を実施した。また、隔年発行の「放射線技師部会誌」は、第6号の平成13年度5月の発行に向けて、講演会の内容やアンケート結果、会員施設からの研究発表など取りまとめを行った。

### 1 運営委員会

委員長 井上博志（洛和会音羽病院）

副委員長 志垣隆一（宇治徳洲会病院） 本郷隆治（京都桂病院）

委員 井上幹也（三菱京都病院） 岩崎和幸（ラクトクリニック～平成13.2武田病院）

梅村賢仁（富田病院） 桑原寛行（宇治病院） 斉藤孝行（京都南病院）

八木雅彦（京都工場保健会診療所）

担当理事 小森直之

開催日 65/9 7/11 9/12 9/25 10/10 11/14 2/13 3/13 4/10 計9回

### 2 主な活動

#### a 講演会

第41回 7月11日 於：京都府医師会館

テーマ / 「知って得する医療被曝の知識」

講師 / 西谷源展（京都医療技術短期大学助教授）

参加者 / 34施設 71名 共催 / 婦長部会

第42回 9月25日 於：京都府医師会館

テーマ / 「心臓血管領域の画像診断～血管造影は永遠にゴールドスタンダードであり得るか～」

講師 / 三木真司（三菱京都病院循環器科副部長）

参加者 / 18施設 27名

第43回 1月26日 於：株式会社島津製作所研修センター

テーマ / 「マルチスライスCTの紹介」

「マルチスライスCTの運用事例」

講師 / 佐藤行雄（株式会社島津製作所医療機器事業部応用技術部主任）

加藤尚子（医仁会武田総合病院） 後藤正（済生会京都府病院）

柴山博之（シミズ病院） 塩見彰雄（綾部市立病院）

参加者 / 22施設 35名

## b レントゲンフィルムの保管に関するアンケート調査

協力施設 / 42 施設

## H 情報システム検討会

会員間の効率的なネットワークづくりに向けて検討した。日常生活において情報通信技術の高度化と普及が進むと同時に、医療分野への影響も大きい。会員病院においても情報技術の利用は益々広がる一方、格差も進んでいることが伺われる。検討会としては、協会活動のなかで効率的で経済的な情報のやりとりがおこなえるよう、日常的なインターネット等の利用・普及をめざしている。

当協会の Web ページでは、会員を対象に医療情報の提供を、また一般に対しては協会の活動を紹介する情報を掲載している。時間的、量的に柔軟な対応ができるインターネットの特徴を活かして、できる限り頻繁に情報の更新をおこなってきた。

開催日 11/22

委員 中野種樹、河端一也、小森直之(以上、理事)  
大槻俊知(武田病院)

## I 病院機能向上対策委員会

当委員会は私病協会員病院の医療機能の向上に資することを目的として平成9年度に設置された。委員は日本医療機能評価機構のサーベイヤー(医師・看護婦・事務長)を中心として構成され、会員病院に対して機能評価機構の事業について啓発活動を行うとともに、サーベイ活動で得られたノウハウを会員へフィードバックするように努めている。とりわけ今年度は、医療機能評価の受審を推進するための説明会を開催した。

### 1 委員会

委員長 板坂 勉

委員 秋山俊二 岡本豊洋(第二岡本総合病院)、小山忠典、戸津崎茂雄、中野種樹  
増井 榮、山名千代

2 開催日 11/29 1/23 2/1 計3回

### 3 主な活動

#### a 研修会

2月1日 於：京都府医師会館 参加者 / 153名

テーマ / 「医療機能評価を受審するためのポイント説明会」

講師 / 滝沢良明(財団法人日本医療機能評価機構事業部長)

大賀興一(第二岡本総合病院院長) 木下明美(三菱京都病院看護部長)

山口一昭(京都南病院企画課課長)

## J 地区会議

会員相互の連帯を深めるとともに執行部と会員の情報交換と親睦を図る目的で毎秋開催している地区会議だが、本年度は北部・南部および京都市域の3か所で開催した。スタートした介護保険制度、4月診療報酬改定にまつわる様々な問題を取りあげたほか、社会問題にまでなり緊急な対応に迫られた医療事故防止対策、病院経営と直結する医薬分業の状況などについて協議した。また、協会が開催する事業案内や事業について説明し、会員の理解を求めた。

テーマ / 介護保険について 医療保険制度について

協会の取り組み状況(医療事故防止対策など)

- 1)京都市域 10月30日 於：京都府医師会館  
参加 / 地区会員 68名
- 2)南部地区 11月8日 於：文化パルク城陽  
参加 / 地区会員 16名
- 3)北部地区 10月21日 於：舞鶴グランドホテル  
参加 / 地区会員 15名

## K 新春会員懇親会

年頭における恒例行事として定着した新春会員懇親会を今年度も講演会とあわせて開催した。講演会では「巳年雑感～安部晴明の暦から今年を占う」をテーマに晴明神社宮司の山口喜堂氏にご講演いただいた。

講演では、陰陽道がなぜブームになったかということ、晴明が寛弘2年(1005年)に亡くなり、平成15年で1000年を迎える。この平成の時代が、平安時代の1000年前の物の考え方や世の動きが非常によく似ているから、全国の若者が来るようになった。今年は「辛巳(金火)」で、一般の景気回復も間もなくという状態で、長い冬が終わり、春から夏へ沸騰する時代になってきますと締められた。

当日は、来賓として草木京都府副知事、高木京都副市長をはじめ関係各方面から多数の方々にお越しいただき、懇親会においてご祝辞をいただいた後は終始和やかな雰囲気の中で会員同士あるいはご来賓の方々との交流が図られていた。

- 1月10日 於：都ホテル 参加者 / 230名  
講演 / 「巳年雑感～安部晴明の暦から今年を占う」  
講師 / 山口喜堂(晴明神社宮司)

## L 創立36周年記念式典

協会創立36周年を迎え、恒例となっている記念式典を開催した。関係各位のご臨席をいただき、各病院より推薦された永年勤続・優良職員の表彰をおこなった。式典後の祝賀会では、和太鼓のパフォーマンスやお楽しみ抽選会などもあり、会員間の交流を深めた。

11月17日 於：京都全日空ホテル 参加総数 300余名

永年勤続・優良職員表彰 / 158名

来賓 / 和田健・京都府保健福祉部医療国保課長、田中義枝・京都市保健政策監、  
吉岡秀憲・京都府医師会副会長ほか

## 広報活動および情報サービスの充実

### A 京都私立病院報

「京都私立病院報」は、当協会における基幹広報誌として、毎月1回1日に定期発行している。編集には、担当理事、事務長会、婦長部会からの委員で構成される私病報編集委員会あたり、編集会議を毎月月上旬に開催している。

内容については、当協会の活動を中心に、時々医療の動向を伝えるニュース、執行部の方針や解説、私的病院を取り巻く重要事項の伝達、毎月の各種会議の議事録、また会員からの投稿記事や会員消息を可能な限り掲載することにより、会員相互のコミュニケーションを図っている。執筆はできるだけ多くの方々に依頼するよう考慮している。また、表紙には会員病院に所属する方々の絵画作品や写真をご紹介している。

作成費や郵送料が高騰している折、ある程度広告収入に頼らざるを得ず、広告募集を積極的におこなっているところである。

現在の発行部数は約2300部で、会員病院へは会費金額に応じて冊数を設定し送付している。

また関係行政機関、国会・府市議員、関係諸団体、その他の購読契約者へ配布している。

#### 1 私病報編集委員会

委員長 中野種樹(副会長)

委員 梶並稔正、久野成人、栗岡成人、吉川 聡 = 以上理事

大西三津夫、岡部睦美(～平成12.6)、奥田 守(平成12.8～) = 以上事務長会委員

大滝久枝、森下美代子(～平成12.5)、倉田洋子(平成12.6～) = 以上婦長部会委員

開催日 4/11 5/10 6/13 7/11 8/9 9/13 10/10 11/14 12/13 1/17 2/14 3/14

計12回

#### 2 発行回数

14回発行 第437号(4月号)～第450号(3月号)

そのほか、438- 臨号（総会号議案書）を発行。

## B 創立35周年記念誌

当協会が創立35周年を迎えたのを記念して、この5年間の活動データと担当理事による解説を資料・写真なども合わせて冊子としてまとめた。会長・副会長による記念座談会や各委員会名簿、年表なども掲載している。一般市民向けに、ホームページで入手できるようにした。

発行月 8月 B5判 約100ページ

## C 私病協情報サービス

本紙は、月に2回各紙新聞記事より、医療関係のニュースのほか労務管理に関わる情報までを集め、冊子にして発行しているもので、会員病院への情報提供のひとつとして定着してきている。

発行/原則として月2回（1日・16日）発行 No.334～355

利用紙/一般商業新聞5紙 発行部数/84部

## D 感染症対策に関する広報活動

腸管出血性病原性大腸菌O-157の発生を契機として、世界的規模での発生が恐れられる新興・再興感染症などに対する危機管理意識の高まりから、厚生省、行政による感染症対策が積極的に図られるようになった。当協会では、春から夏の時期にかけて行政の対策本部と綿密な連携のもと、感染症対策について必要な情報を迅速に会員に伝達したほか、前年に続いて京都府・京都市からの依頼にもとづき会員病院の診療体制を調査し、「O-157患者の後送受入医療機関リスト」作成に協力した。

## E 協会ホームページ

当協会のおこなっている活動や会員病院などに関する情報を広く紹介していくため、ホームページを開設している。運営に当たっては、情報システム運営委員会で内容やデザインなどについて企画・検討をおこなった。主な内容は、協会の事業紹介や医療界の新着情報、会員施設の紹介、医療関連へのリンク集など。会員同士あるいは会員と協会とのコミュニケーションツールとしての活用が図れるよう、今後更に内容を充実させていきたい。

京都私立病院協会ホームページ <http://www.khosp.or.jp>

京都私立病院協会メールアドレス [info@khosp.or.jp](mailto:info@khosp.or.jp)

## F その他の広報活動

上記のほか、緊急を要することがらについて、ファクシミリなどを用いて随時連絡をおこなった。

## 病院職員の確保対策への取り組み

### A 養成事業

看護婦の養成については、京都保健衛生専門学校・二年課程全日制 1 クラス40名、昼間定時制 1 クラス40名、三年課程 1 クラス40名、京都中央看護学校 2 クラス80名の養成が引き続き行われているが、入学後の進路変更や結婚・出産等による退学・留年が少なからずあり、必ずしも順調とは言いがた状況も出てきている。京都保健衛生専門学校は、平成 9 年 3 月 4 日付で学校法人となり 4 年が経過し、平成 13 年 3 月に 3 期目の理事長として清水紘、学校長に大澤直が就任し、少子化の時代における厳しい学校運営にあたっている。保健衛生専門学校における臨床検査技師の養成は、昼間・夜間を併せて80名の定員を確保することが難しい状況にあるが、臨床工学技士専攻科は応募者、国家試験合格率ともに順調に推移している。

### B 医療従事者無料職業紹介事業への取り組み

会員病院を中心に京都府下の医療機関における安定的な人材確保に寄与していくことを目的に開設され、労働大臣の許可を得た私病協医療従事者無料職業紹介所も発足後 13 年が経過した。

平成 12 年度の取扱状況は以下に示す通りであるが、医療機関の経営状況の圧迫からか全体的に求人数が伸び悩み、紹介実績の確実な増加には結びついていない。職種別の需給状況を見ると、医師、看護の登録は極めて少ない。また放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士などの職種は医療機関からの求人が極めて少ない状況にあり、需要供給のアンバランスがある。

職業安定法が改正され紹介職種の規制がなくなり、全ての職種(一部除く)が紹介できることになったが、当協会の職業紹介事業の目的から鑑み、現職種にホームヘルパー、ケアマネジャーを追加した。今後とも社会状況をみながら取扱い範囲の拡大を図っていきたいと考えている。更に当紹介所の活動を各方面にご理解していただきながら、求人者、求職者の開拓に努力していききたい。

#### 1 職業紹介事業運営委員会

##### a 運営委員

板坂 勉(担当理事=運営委員長) 秋山俊二(担当理事)

太田 互(事務長会) 高橋美津子(婦長部会)

吉田多美（事務局）、富田昌則（紹介責任者）

b 運営協力委員

大西敏之（薬局長会）、岩崎和幸（放射線技師部会）

松林英樹（臨床検査技師部会）、日野千恵子（栄養士部会）

c 開催日 6/27 8/8 12/14

2 主な取り組み

a 新聞求人欄に広告掲載をおこなった。

8月26、1月20日（京都リビング）

b 私病報への「求人情報」を連載した。

c 就職相談会を開催した。

3月2日 於：京都府医師会館

求人参加 / 37施設 求職参加 / 9名

3 求人・求職・紹介状況（平成13年3月31日現在）

求人申し込み数 162、求職登録者数 39、紹介件数 6、就職者数 1

## 病院団体との交流

### A 近畿病院団体連合会

1 委員会 当番 / 大阪府私立病院協会

a 第1回委員会 8月11日 於：グランキューブ大阪（大阪市）

<主な議題>

1)平成11年度役員選出

委員長 / 佐藤 真杉（大阪府私立病院協会会長）

副委員長 / 北村 行彦（兵庫県私立病院協会会長）

川合 弘毅（大阪府私立病院協会副会長）

2)12年度診療報酬改定に伴う影響度について意見交換

3)介護保険発足に伴う問題点について各府県の状況報告

4)医療事故対策について各府県の状況報告

5)京都における患者への医療費減額通知について報告

6)消費税問題についての提言

7)「四病院団体協議会」の発足について報告

b 第2回委員会 13年4月6日 於：ホテルニューオータニ大阪（大阪市）

<主な議題>

1) 第四次医療法改正の概要について(兵庫県病院協会副会長 邊見公雄)

2) 情報・意見交換

平成12年度医療監視～人員配置、特に非常勤医師の常勤換算と医師の労働時間等について

看護職員需給状況について

大阪府医療情報システムについて

電気・ガス・水道料金等に関する減額処置について

治療上の必要により特別療養環境室に入院させた患者への特別料金について

医療廃棄物の経費について

3) 報告事項

一日患者調査について

四病院団体協議会の現状について

4) 協議事項

医療法の改正に伴う病床面積及び廊下幅拡張改築に伴う資金確保について

2 事務長会 当番/兵庫県私立病院協会

a 第1回事務長会 10月25日 於:グリーンヒルホテル明石(神戸市)

<主な議題>

1) リスクマネジメントマニュアル各府県、各病院の対応状況報告

2) 消費税問題について意見交換

3) 診療報酬改定影響度調査について大阪府私病協より報告

4) 診療報酬改定と各病院の対応について報告

5) 地域医療連携システムの構築について奈良県、兵庫県より報告

b 第2回事務長会 3月16日 於:エスタシオン・デ・神戸(神戸市)

<主な議題>

1) 情報交換

院内のテレビ(NHK)受信料金について

医療保険・介護保険における施設基準実地調査の状況について

リスクマネジメントの取り組み状況について

大阪府私病協患者満足度・職員満足度調査の概要について

大阪府私病協中小病院部会の活動状況について

これからの病院管理者の育成について

平成12年度職員給与アンケート調査結果について

老人一般病棟入院基本料の算定上の特定患者について

BBネットについて(病院情報通信ネットワーク化)

## 2) 協議事項

介護保険サイドのその後の状況

### B 全国病院団体連合

24病院団体6,373病院(一部重複あり)と6職能団体570,177人が加盟しており、9月7日に開催された常任幹事会において平成11年度事業報告・収支決算が承認された。また、全国公私病院連盟の役員交代に伴って役員の一部変更が承認された。

今後の活動については、本年7月に「四病院団体協議会」が発足したのをうけて、「全国病院団体連合」を存続問題も含めてどうするのか協議した。職能団体も参加するこの会はユニークであり、特色を出した活動を続けていき、存続させることを確認した。

### C 中央における病院団体

#### 1 日本病院会

##### a 役員派遣

副会長：武田隆男

代議員：中野 進 相馬秀臣

平成13年4月からの次期役員として、副会長に武田隆男、理事に赤松春義(宇治病院院長)代議員に清水紘・真鍋克次郎を推薦した。

##### b 各種催しへの共催・後援

###### 1) 病院経営管理研究会への後援

日 時 / 平成12年10月26日～27日 会場 / ぱ・る・るプラザ京都

###### 2) 病院管理者協議会研究会への後援

日時 / 12年11月17日、18日 会場 / アズウェル本社(大阪市)

###### 3) 中小病院情報交換会への協力

日時 / 13年2月10日 会場 / マリアージュ(京都市)

テーマ / 「高齢者医療制度の現状と展望」

厚生労働省保険局老人医療企画室長 鈴木俊彦

#### 2 全日本病院協会

役員派遣 理事：清水 紘

#### 3 日本医療法人協会

役員派遣 常任理事：武田隆久 代議員：小森直之

## 京都府内における医療団体との連携

### A 京都府医師会

平成8年より実施している保険医療問題懇談会も2ヶ月に1度を目安に定期的に開催され、その都度の保険医療問題について協議し、その機能を果たしている。また、介護保険に関する担当理事間の話し合いを本年度も引き続き介護保険問題懇談会として開催し、意志の疎通を図るとともに介護保険制度の円滑な運営にむけて協同して活動を行ってきた。古くて新しい問題である救急医療についても、協同して京都府へ要望を出すなど同一歩調をとっている。(詳細別記)

#### 1 各種委員会への委員の派遣

労災・自賠責委員会 真鍋克次郎

救急委員会 吉川順介 中野博美 西村幸隆(室町病院) 清水幸夫  
角能庸介(石丸庸介・田辺中央病院) 山里有男(武田病院)

学術生涯教育委員会 栗岡成人 真鍋克次郎

地域ケア委員会 清水 紘

#### 2 役員懇親会開催 7月27日 於：京都ホテル

「これからの政党に望むもの」と題した話題提供を両会から理事1名づつが行った。

#### 3 催しへの共催・後援

##### a 「第27回くらしと健康展」への後援

9月16日、17日 会場/京都府総合見本市会館バルスプラザ

##### b 介護保険関係での数々の催しや調査への共催及び後援

### B 京都府病院協会

平成12年6月第35回京都病院学会を両協会が協力して開催した。また、13年度6月に開催する第36回京都病院学会の開催に向けて準備を開始した。(詳細別記)

### C その他

#### 1 平成12年度「看護の日」事業への後援

5月12日 会場/京都駅前地下街ポルタ中央広場 他

#### 2 第8回京都府老人保健施設大会への後援

11月11日 会場/京都府医師会館

#### 3 「00平和のための京都の戦争展」への後援

8月1日～8月10日 会場/立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール

#### 4 京都皮膚科医会・市民公開講座「爪の健康セミナー」への共催

- 6月24日 会場 / 京都商工会議所
- 5 在宅ケアを支える全国診療所ネットワーク「題6回全国の集い京都2000」への後援  
9月23、24日 会場 / 国立京都国際会館
- 6 経済産業省「IT整備都市研究事業」における実証コンソーシアムへの参加

## 行政への対応

一段と厳しい経営環境の中で地域医療に果す民間病院の役割を誇りとし、その權益を守るために行政とは絶えず話し合いや要望活動を実施してきた。民間病院への国庫補助制度の活用を図るため、京都府の積極的対応の要請、政管健保生活習慣病予防健診事業について京都社会保険事務局との折衝、介護保険制度の実施に伴う様々な問題について状況を把握し、会員へ情報提供すると共に会員の意向を行政へ反映さすべく京都府及び京都市担当課との話し合い等をおこなった。行政が行う医療機関に対するお知らせや調査等の協力依頼についてその都度積極的に対応した。（詳細は各々別記）

昨年、一昨年と大流行したインフルエンザについては、国においては流行の型の特定やワクチンの量を昨年の数倍製造するなどの対応をとっており、京都府においてもインフルエンザワクチン確保対策検討会を12月7日に開催し、京都での十分な確保と防止にむけ検討をおこなったが、当協会も清水正啓理事が参加し、協力をおこなった。結核については、一般病院に入院している患者の後送問題は昨年より状況は好転しているとは言い難く、一刻も早い体制の整備が望まれる。

平成13年度の京都府・京都市予算に対しても以下の要望を行った。

### A 京都府

#### 1 平成13年度京都府予算への要望

< 要望内容 >

感染性廃棄物処理経費への財源措置と適正業者の確保への支援

看護学校の運営に対する助成

理学療法士・作業療法士の養成に対する要望

医療従事者の質の向上・充実への取り組みに対する支援

感染症等の発生に伴う病院の予防医療活動への支援

医療事故防止対策への取り組みへの支援

民間病院への融資制度の弾力的運用のお願い

については、昨年同額の助成を確保することが出来た。

については、当協会の活動にたいする単年度の予算を確保することが出来た。

については、実効性のある制度の構築にむけて理事である清水鴻一郎議員を中心に検討をおこなっていくことになった。

2 各部審議会等への委員の派遣（京都府・京都市以外の行政関連を含む）

京都府医療審議会	武田隆男
京都地方社会保険医療協議会	武田隆男
京都府救急医療情報システム運営懇談会	清水 紘
京都府血液製剤使用に関する懇話会	吉川順介
京都府周産期医療協議会	清水 紘
総合周産期母子医療センター運営会議	山本義昭（医仁会武田総合病院）
京都府看護職員需給見通し検討会	吉川順介 板坂 勉
国保連介護サービス苦情処理委員会	吉川 聡
京都労働局雇用均等行政協助手員	吉田多美

3 京都府主催の行事への後援や調査依頼等への協力

a 平成12年「愛の献血助け合い運動」への後援

実施期間：7月1日～7月31日

b 平成12年度エイズ研究会への後援

3月16日 於：ルビノ京都堀川

c 腸管性出血性大腸菌O-157患者の受け入れ状況調査の実施

d 看護職員需給調査への協力

## B 京都市

1 平成13年度京都市予算への要望

< 要望内容 >

看護学校の運営に対する助成

感染性廃棄物処理経費への財源措置と適正業者の確保への支援

医療機関に対する上・下水道料金の軽減措置

病院群輪番制病院運営事業における事業単価減額に対する配慮のお願い

感染症等の発生に伴う病院の予防医療活動への支援

については、昨年と同額の助成を確保することが出来た。

については、12年度は国の単価が11年度より上がったが、京都市との話し合いで前年の額を支給するとなっていたため、11年度の低い額となったが、このことを受けて13年度については国が示す高いほうの額で支給してもらうことをお願いした。

2 各部会・審議会等への委員の派遣

京都市社会福祉審議会臨時委員	武田隆男
----------------	------

京都市健康づくり協会	武田隆男
京都市HIV感染症対策専門委員会	武田隆男
財団法人京都市休日急病診療所理事会	清水 紘
財団法人京都市休日急病診療所運営委員会	松本真一
救急救命士に関する懇話会	清水 紘
大災害発生時の救急医療体制整備に関する研究会	清水 紘

- 3 京都市乳幼児デイサービス事業12年度実施施設に金井病院・京都桂病院を推薦、確定した。

### 関連団体との連携

当協会には、京都保健衛生専門学校、京都中央看護学校の2つの学校と京都府病院協同組合、京都府病院厚生年金基金の4つの関連団体がある。京都保健衛生専門学校は、設立以来永年当協会が直接運営を行ってきたが、平成9年3月学校法人京都保健衛生専門学校の認可を受け、独立した組織として出発し4年が経過した。

それぞれの団体は、協会活動のなかから必然的に生まれた組織であり、各団体には協会の会員が参加しており、5つの団体が十分連携をとりながら業務を進めていくことが大事であり、そのことを念頭に置いた組織運営がなされている。

各団体の役員には私病協の執行部からの役員派遣を行い、各団体の事務局責任者が私病協理事会へ出席することにより相互の業務の理解が深まるよう、運営が行われている。また、5つの団体の全職員が加盟する共済会を組織しており、連帯意識を持つ土壌となっている。

### 職員人事（平成13年4月1日現在）

#### A 京都私立病院協会

事務局長 / 吉田多美

事務局員 / 野村 浩（局長補佐）、富田昌則（課長代理）、津崎桂子、岡本哲治、木村仁美、  
竹内 誠

#### B 京都保健衛生専門学校

事務局長 / 松 祥三

##### 1 事務局

事務次長 / 奥村 隆

事務局員 / 佐藤真喜子（課長）、岸本靖子、野田照子、石井順子、磯田典子、安馬好美、  
衣川美佳、吉岡 清

## 2 教 務

### a 看護学科

副校長 / 塩見千恵子

#### 1) 看護学科三年課程

教務主任 / 岡むつ美

教 職 員 / 角田富久子、外山絹子、白波瀬裕美、斎藤祥乃、上野佳穂、那須さとみ、  
渡辺友理子、瀧川結子、南田喜久美

#### 2) 看護学科二年課程(全日制)

教務主任 / 高橋みどり

教 職 員 / 山本美枝、高野由紀子、海江田恵美、川戸美智子、吉野久美子、谷本千亜紀

#### 3) 看護学科二年課程(定時制)

教務主任 / 岩下チエ子

教 職 員 / 黒木美智子、上仲洋子、橋村多喜栄、上田美保子、本城達也、谷川寛子

### b 臨床検査学科

教務部長 / 石田洋一

教務主任 / 田尻 睦

教 職 員 / 前川由起子、宮野 亘、小澤 優、相良郁夫、後藤直樹 桐明直美

嘱託 / 河上嘉秀

### c 臨床工学技士専攻科

教務主任 / 生駒俊和

教 職 員 / 泉田洋志

## C 京都府病院協同組合

事務局長 / 平池恵一

事務局員 / 須賀修司(次長)、杉浦瑞江(課長)、村上 衛(主任)、篠田美津代、木股亜由美、  
山本順子、松村浩史、田村篤志

## D 京都府病院厚生年金基金

常務理事 / 齊藤武志

業務課長 / 高田滋之

主 任 / 藤原節子

事務職員 / 大喜多智子、船引奈留美

## E 京都中央看護専門学校

校 長 / 佐野 豊

事務局長 / 島田崇志

事務部長 / 武村雄一

事務職員 / 藤木明美、蒔田耕一、若林典子、出野 順

副 校 長 / 池西静江

教務部長 / 石束佳子

教職員 / 池田万喜子、松田弥生、池田美晶、田口豊恵、渡邊江身子、岡田由岐子、  
上山みゆき、阿形奈津子、大藤 栄、陶山ヤス子、山室仁美、椿田貴史

## 【医 制 部】

### 医療制度の検討

#### A 病院をとりまく情勢

介護保険制度がスタートし、併せて診療報酬の改定への対応により慌ただしさのなか、平成12年度が明けた。いずれも、これからの医療界が大きく変貌していく予兆を感じさせる制度の改定が含まれた内容である。「外来基本料」や「入院基本料」の設定はDRGの始まりと見ることができる。この傾向は今後も進んでいくことが予想され、これに対応することを考えていく必要がある。介護保険が導入されたことにより、従来の医療に及ぼす影響には特に注視していかなければならない。

4月の診療報酬改定の影響率は入院が0.8%、入院外が-2.1%で、入院、外来を合わせると-0.2%（全国公私病連調査）となっており、厚生省発表の実質0.2%の引き上げより低い改定にとどまっている。日本病院会による病院運営実態分析調査では、64.6%の病院が赤字という結果になっており、100床当たり総収支で753万円の赤字という厳しい状況に病院は置かれていると言える。

13年1月には健康保険法が改正され、介護保険の利用者負担との整合性を図る趣旨で老人の自己負担が定率1割となった。医療保険制度の抜本改革の第一歩と位置づけられるもので、3月から施行されている改正医療法とともに、着実に改革の波が押し寄せている。改正医療法では、一般病床と慢性期病床が区分され、療養型病床群は慢性期の中に取り込まれることになった。また、診療情報の提供、広告規制緩和、医師の臨床研修の必修化なども含まれている。病床が機能別に分けられたことにより、個々の病院のビジョンや地域の病院の状況を分析し、選択と地域での連携を考えていくことが求められる。一般/慢性の選択は15年8月までに届け出るとされているが、建替、全面改築を計画する場合は病床削減せざるを得ない状況も想定される。また、地域医療計画の見直しでは病床数の規制が強められることになり、それぞれの会員病院において、将来の方向性を見極めて決断しなければならない時期にさしかかっている。

医療制度改革の根拠となっているのが、高齢者の医療費増と保険財政の危機的状況である。11年度の医療費の動向をみると、医療保険医療費は28.5兆円と3.7%増加し、老人保健分は初めて11兆円台に乗った。対保険医療費比も40%を越えることになった。各方面から出されている改革案はいずれも高齢者医療制度の改革であり、日本医師会でも「2015年医療のグランドデザイン」を発表し、診療報酬の包括払制度の導入、介護保険制度との統合を謳っている。保険者機能の強化、税負担の在り方、公費財源の調達方法、などが焦点となってくるとみられ、そのなかで包括支払い契約、民間契約、混合診療といった議論も改めて浮上してく

るのではないかとと思われる。

## B 医療制度検討委員会

本委員会は協会の理事、事務長会・婦長部会・薬局長会からの委員、および会員の医師から構成されており、病院をとりまく様々な問題について、特に医療制度の面から検討・分析をおこなった。検討した結果を理事会などで報告・提案したほか、「私病報」誌上にはニュース記事として提供した。この1年間には、介護保険制度を目前に控えて、介護保険と医療保険をめぐる動向を毎回討議したほか、医療制度の動向をまとめた「医療をめぐる動き」を検討し、「私病報」誌上に提供した。

### 1 主な検討項目

- a 患者への医療費減額通知について(6月)
- b 医療事故防止をめぐる状況(6、7月)
- c 診療情報の提供について(7月)
- d 混合診療について(10月)
- e 日本病院会中小病院委員会情報交換会の開催について(11月)
- f 健康保険法・医療法の改正について(1、2月)
- g IT整備都市研究事業について(2月)
- h 身体拘束について(3月)

- 2 委員 清水 紘(担当副会長) 山口孝男、板坂 勉、栗岡成人、清水鴻一郎、戸津崎茂雄、松井道宣、松本真一(以上、理事)、岡本豊洋、相馬靖(以上、会員医師)、土居 皓、堀井成彦(以上、事務長会派遣)、木下明美、中田笑子(～平成12.11)(以上、婦長部会派遣)、妻谷多美代(薬局長会派遣)

- 3 開催日 6/17 7/13 9/14 10/12 11/30 1/11 2/8 3/8 4/12 5/10 計10回

## C 感染症対策委員会

平成10年度冬季のインフルエンザの大流行、結核の集団感染問題、B・C型肝炎の院内感染、O-157をはじめとする各種の食中毒の多発、HIV感染問題、さらには11年4月の感染症新法の施行など、感染症問題を取り巻く諸問題への対応と院内感染防止に向けての諸対策を講じる目的で、同年6月、私病協「感染症対策委員会」が設置された。委員会は、理事会・婦長部会・会員内の専門医師により構成され、毎月1回定例開催している。

定例の委員会では、月間の感染症情報の整理と会員への情報提供の方法などについて検討し、「私病報」に掲載した。また、各種調査や研修会の企画等も行っており、特に12年度は、医療機関が抱えている一つの大きな問題として、MRSAをはじめとする結核菌以外の感染症の患者対策、院内感染予防対策などの問題を検討してきた。

7月には「感染症(MRSAなど)対策に関するアンケート調査を実施し、調査結果は11月の研修会での中間報告と、さらに詳しく「私病報」に掲載した。11月には協会の各職能部会の協力を得て、全ての職種を対象に大規模なフォーラムを開催した。また、「HIV針刺し事故について」会員病院への周知をはかるため、「私病報」に予防薬投与による感染予防対策について掲載した。

#### 1 委員会

委員長 清水正啓(理事)

委員 中野博美、戸津崎茂雄、大野研而、小森直之、河端一也(以上、理事)

池田宣昭(医仁会武田総合病院) 大滝久枝、進藤美智子(以上、婦長部会派遣)

2 開催日 6/7 7/5 8/2 9/6 10/4 11/1 12/6 2/7 3/7 4/4 計10回

#### 3 フォーラム

テーマ/「院内感染から見たMRSA対策フォーラム」

講師/塩貝邦夫(三菱京都病院・臨床検査科主任)

大西敏之(武田病院・薬局長)

奥田孝子(京都桂病院・呼吸器センター・婦長)

戸津崎茂雄(当委員会委員)

須野原修二(洛和会音羽病院・ヘルスケアシステム本部・副部長)

吉田正(塩野義製薬株式会社)

集計報告/「感染症(MRSA)対策に関するアンケート」

河端一也(当委員会委員)

対象/全職種 参加者/85施設 274名

#### 4 感染症(MRSAなど)対策に関するアンケート調査の実施

実施日/7月

調査対象/私立病院協会会員168機関(特別会員含む)

回答数/89施設 回収率/53%(会員病院限定 88/144 61%)

## 医療保険・関係諸法

### A 入院基本料等基準・施設基準

今年度も入院基本料等基準・施設基準対策を重点事業の一つとして位置づけ、会員施設における各種基準の取得を推進するとともに、適正な運用のための援助に努めてきた。具体的には、個々の会員病院に届出前の助言や指導、各種の参考資料や医療保険関係の情報提供、さらには京都社会保険事務局および京都府高齢化対策課など関係部局との連絡や調整、会員病院に対する実地調査への立ち合い及び調査後の事後処理への協力など多岐にわたる活動を行ってきた。

とりわけ、各種施設基準に対する事後調査に伴う諸問題の処理にあたり、現行の行政指導の状況と基準運営上の留意すべき事項について事務局で取りまとめを行い会員に配布した。さらには、京都府下における各種基準や事後調査の取り扱いについて、保険担当理事と京都府医師会との間で適時意見・情報交換を行い、より適正な行政指導が実施されるよう提言を行ってきた。

医療保険制度への適正な対応は、全ての私立病院にとって共通の重要課題であることから、今後も全会員が適正で円滑な基準運営が行えるよう、積極的な対応に努めることにする。

#### 1 各種基準相談

会員病院から保険に関する相談を随時受け付け、助言や指導を行うとともに、各種マニュアルや参考資料などを提供してきた。各種基準の届出時はもとより、事後調査の前後や内容変更時における相談も年々増加している。

#### 2 事後調査対策

私病協会員病院に係る入院基本料等基準・各種施設基準届出後の事後調査の状況については、平成12年度で会員47病院が対象となり、その内、昨年度未実施分も含め41病院について届出受理後の実施状況の点検が行われた。当協会では事後調査前後の個別対応はもとより、調査の有無に関わらず日常的な自主点検の重要性を会員に呼びかけている。さらに、最近の行政指導の傾向を踏まえた上で、調査にあたっての留意事項を取りまとめたチェックリストを事前に調査対象病院に配布することで、一層の自主点検と早期改善を促している。

#### 3 実施状況報告書点検サービス

京都社会保険事務局に入院基本料、入院時食事療養、理学療法の施設基準を届け出た病院に対して四半期ごとに提出が求められている実施状況報告書についての点検サービスを開始して今年で6年目を迎えた。点検は、各会員病院が京都社会保険事務局に報告書を提出した後に行うものであって、各基準の欠格状態の長期間放置を未然に防止することを第一の目的としている。

点検業務は会員からの申し出により実施しており、3月末現在で35の会員病院に対して点検を行っている。当協会では今後もこのサービスを継続し、希望に応じて非提出月分も随時受け付け点検を実施していく。

#### 4 会員病院における病床区分の状況

(平成13年3月1日現在。右の( )内は平成12年3月1日の状況)

a) 会員数(病院のみ) 141病院(139)

b) 病棟種別による内訳

一般病棟のみ	62病院(64)
一般病棟+療養病棟	38病院(33)
一般病棟+老人病棟	7病院(10)
一般病棟+精神病棟	1病院(1)
一般病棟+結核病棟	1病院(1)
一般病棟+療養病棟+老人病棟	0病院(1)
一般病棟+精神病棟+療養病棟	1病院(1)
一般病棟+精神病棟+結核病棟+療養病棟	1病院(1)
療養病棟のみ	13病院(7)
老人病棟のみ	3病院(6)
老人病棟+精神病棟	2病院(2)
老人病棟+精神病棟+療養病棟	1病院(1)
精神病棟のみ	11病院(11)

#### B 医療保険担当理事会議

毎月第3水曜日の理事会終了後、医療保険担当の理事により医療保険関係の動向を確認し、必要に応じ対策を検討している。12年度は、施設基準等の届け出の受理状況、事後調査の実施状況、療養型病床群の届け出状況、医療保険・介護保険に関する諸問題について協議したほか、府医との保険医療懇談会に向けた調整などをおこなった。

開催日 6/21 7/19 9/20 10/18 11/15 1/24 2/21 3/21 4/18 計9回

#### C 京都府医師会との保険医療懇談会

定例開催している京都府医師会との保険医療懇談会について、12年度は4回開催した。その時々での医療保険問題への対応について協議、情報交換する場であるが、本年度も集团的個別指導の状況や基金・国保の審査状況の把握及び各種基準の事後調査の取扱いをめぐる諸問題への対応等について協議した。とりわけ高額レセプトの返戻については、病院の資金繰りに大きな影響を与えることから、慎重かつ円滑な処理がなされるよう要望を行ってきた。ま

た生保個別指導での私病協担当理事による立ち合いの復活についても要望を続けている。

新看護等施設基準の取り扱いについては、年々行政指導が強化されるとともに診療報酬改定の度に要件が変更され、現場での混乱を招いている。また、病院の基準取得に対する京都府の対応の中には国の設定基準との間に一部矛盾が生じることも稀に見られる。さらには、これまで医療行政を担ってきた京都府の社会保険管理課が社会保険庁の地方支分部局としての「京都社会保険事務局」として新設されたことで、保険医療機関に対する指導方針や医療関係団体との各種取り決めが大きく変動する可能性もあることから、今後は更に両者の関係を緊密にしつつ、保険診療の適正化に向けた積極的な活動はもとより、会員が基準取得を円滑に推進できるよう努める。

#### **D 政管健保生活習慣病予防健診指定医療機関問題**

長年の交渉の結果、平成9年10月より一部参入が認められた政管健保生活習慣病予防健診機関の指定については、平成11年度分として新たに6医療機関を推薦し、3年間で21機関の推薦をおこない、当初の予定を完了した。12年度以降については、改めて協議をすることとなり、事前に京都府保健福祉部長と京都府医師会長の了解を取った上で、機構改革で府保健福祉部保険課から京都社会保険事務局となった担当課と話し合いを持った。9月5日、飯野局長、米田保険課長と清水副会長、吉田事務局長との話し合いの中で、社会保険事務局より国の財政事情が厳しい今日、枠の拡大は望むことは出来ず、12年度予算も要求の9割となっており、当面は指定機関を増やす考えはないとの返答があり、当協会として検討の結果、本年度は指定機関の拡大は難しいとの結論となった。むしろ、実績が問題であり、41機関中21を占める会員機関の11年度の実績が12%台であることを問題とし、配分数を増やすことに努力していくこととした。

また、事業の運用上の問題として、集合健診について、集合健診は健診車を持っているすべての指定機関に開放すべきではないか 適用事業所の名簿が集合健診を実施している指定機関にのみ渡されているとの話もある。不公平ではないかなどの疑問の声があがっていることについて、問題提起をしたが、事態の好転に至ってはいない。けん制にはなったのではないかと考えている。今後もより良い健診事業にむけて提言を行っていく必要がある。

#### **E 特別の療養環境の提供に係わる調査(室料差額実態調査)への協力**

今年度も京都社会保険事務局(以前の京都府保健福祉部社会保険管理課)の意向を受け、対象会員病院(139病院)における7月1日現在での室料差額徴収状況の実態調査を行った。

平成12年4月の診療報酬改定以降、各保険医療機関における室料差額の徴収をはじめとする保険外費用の徴収に対する適正化が一層強く求められてきている。また、特定療養費の厳正なる取り扱いは各種施設基準の届出時の受理条件の一つとされているところである。それ

ゆえ、今後も引き続き本件の重要性に着目し、特定療養費制度の会員病院への周知徹底と適正な運営のための協力を行っていく必要があると思われる。

## F 生保指定医療機関に対する個別指導への立ち合い

平成12年度も京都府および京都市による生保指定医療機関への個別指導に立ち会いを行った。平成9年以降、理事者(医師)の立ち会いについては京都府医師会の担当理事のみが行っており、当協会からは事務局の担当者が立ち会いをし、その調査結果については保険担当理事会において随時報告している。

京都市の実施分については、今年度も特に「傷病名の整理」が強く求められている状況であった。しかし、昨年までとは異なり、ここ最近では診療行為の内容確認だけではなく、患者の稼働能力や就業の可否に対する確認や社会復帰に向けての対策、行政手続き上の問題についての検討も行われている。

生活保護率については、依然として京都府・京都市とも全国平均を大きく上回っている状況で、とりわけ医療扶助としての支給率が増加傾向にある。それゆえ、今後も診療内容や治療期間など細部にわたる指導が行われると予想されるので、当協会理事者の立ち合いの復帰も含め、機会あるごとに適正な行政指導が行われるよう意見を述べていく必要があると思われる。

実施日 / (京都府分) 7/3 8/28 9/13 10/2 10/19 11/10 11/24 12/13 計8回

(京都市分) 8/25 8/30 9/22 10/31 11/27 12/22 1/24 2/28 計8回

## G 診療報酬委員会

診療報酬そのものを扱う委員会として、理事および事務長会医事部会・び医事専門委員からの代表で構成される委員会が新たに発足した。診療報酬改定に関する当協会の方針や、政策的な運営に寄与するためのシンクタンク的な機能を果たしていく方針。診療報酬改定に向けた要望、診療報酬・医療保険問題などに関する提言をまとめていくことなどがあげられるが、12年度は診療報酬改定の影響度について各施設の状況を調査し、まとめた。開催は随時開催とし、場合によって集中的に開催する。

委員 清水 紘(副会長) 山口孝男(理事) 石原良二・大槻 均(事務長会医事部)  
岡田幸夫・小川比佐男・高田浩之・福井満弘(事務長会医事部医事専門委員)

開催日 8/8

## 介護保険

### A 介護保険への取り組み

平成12年4月1日、介護保険制度がついに施行された。法施行前後においては、介護保険制度に係わる諸問題や矛盾点が次々と浮かび上がり、現場では試行錯誤の連続であった。このような混乱した状況の中、介護保険委員会の内部に介護保険制度におけるキーパーソンであるケアマネジャーで組織する会議(準備委員会)を設けて要介護認定に係わる行政手続きや各種記録様式の見直しを検討してきた。一方、介護報酬の返戻や査定問題に関しては、現場で実際に請求業務を担当する責任者を中心に介護報酬委員会を組織して介護報酬の算定にかかる疑義解釈を説明するとともに、情報の収集・集積・分析を行う中で介護報酬に係わる問題点を抽出し、その傾向の把握と対策に努めた。

また、12月からは京都府による各種介護サービス事業所に対する指定後の実地指導が開始されており、平成12年度には会員施設の介護療養型医療施設で8件、介護老人保健施設で1件が指導対象となり、実施状況の点検が行われた。会員施設への指導に対しては事務局が立ち会いをし、適正な行政指導が実施されているかどうかの確認を行うとともに、適正で円滑なサービスが提供されるよう会員への資料提供や運用上の助言を行ってきた。

さらには、当協会の清水副会長が会長を務める京都介護療養型医療施設連絡協議会等の関係団体と連携を密にして、京都府・京都市が設置する委員会への委員の派遣や各種事業への助言や提言、研修会や説明会の後援を行い、介護保険制度が円滑に推進されるための活動を積極的に展開している。

<会員病院における介護療養型医療施設指定状況(平成13年3月1日現在)>

1 療養型病床群	44 病院	2693 床
2 診療所療養型病床群	3 診療所	17 床
3 介護力強化病棟	9 病院	1013 床
4 老人性痴呆疾患療養病棟	2 病院	120 床
計	58 病院( 3 診療所)	3843 床

### B 介護保険委員会

当委員会は、平成8年12月に介護保険法が成立した後、介護と医療の密接な関係を重視する観点から、介護保険が医療保険に及ぼす影響を的確に把握・予測するとともに、介護保険制度下における問題点を早期に解決し、介護サービス事業を実施する会員施設が円滑に事業を運営できることを目的として設置された。

委員会では行政(京都府・京都市)及び京都府医師会の担当者を交え、現行の介護保険制度下での諸問題に対して討議し、それぞれの意見を取り交わしていく中で介護保険制度の質

の向上と安定的な運営が図られるよう努めている。

## 1 委員会

委員長 清水 紘

委員 大槻秧司、大澤 直、出射靖生、板坂 勉、秋山俊二、土屋 均（宇治黄檗病院）  
高橋美津子、加藤泰子（京都南西病院）、山本みどり（西陣病院）

開催日 6/27 7/25 9/26 10/24 11/28 1/23 2/27 3/27 4/24 計9回

## 2 主な活動

- a 介護保険に係わるアンケート調査
- b 行政等に対する改善要望書の提出
- c 京都市介護相談員派遣モデル事業、介護サービス評価事業への協力
- d 京都府医師会による介護支援専門員実務研修、その他各種説明会等の後援と講師派遣
- e 京都府介護療養型医療施設指定申請説明会の共催、指定前現地調査、事後調査、実地指導への立ち会い
- f 介護保険関係情報の会員への提供

## C 介護報酬委員会

介護保険制度の施行前後においては様々な問題や矛盾点が浮上したわけであるが、その中でもとりわけ介護報酬の審査・支払いに関しては当初、国保連合会のシステム上の不具合による返戻や査定が数多く発生し、各サービス事業所の資金繰りに大きな影響を及ぼすことになった。

私病協ではかかる事態を重く受け止め、介護報酬に係わる諸問題を収集・分析し、改善に向けた対策を講じるため、平成12年8月に委員会が設置された。

委員会では、次の3点を運営方針に掲げながら介護報酬の請求に係わるシンクタンクとしての活動を行っている。

- a 介護報酬関係の情報を収集・集積・分析し、会員に様々な情報を提供していく
- b 介護報酬の請求業務に関する研修会を開催し、会員施設における職員の請求事務能力の向上を図る
- c 関係行政・団体に対して介護報酬に係わる改善の要望を行う

## 1 委員会

委員長 茨木孝二（亀岡病院）

委員 浅井武司（木津屋橋武田病院）、安藤良彦（賀茂病院）、大槻卓也（高雄病院）  
鈴木秀哉（京都南西病院）、田中 悟（丹後ふるさと病院）  
入場 繁（蘇生会総合病院）、山内 均（大原記念病院）

担当理事 清水 紘 久野成人

開催日 8/23 9/13 10/13 11/14 1/12 2/16 計6回

## 2 主な活動

- a 介護報酬の返戻状況に係わる実態調査アンケートの実施
- b 介護報酬Q & Aの作成
- c 返戻・査定状況の情報交換
- d 会員への情報提供

## D ケアマネジャー準備委員会

介護保険制度のもとで介護サービス計画の作成をはじめとしたケアマネジメントを担う介護支援専門員が新たに導入され、介護支援専門員が介護の現場において、十分な検討の下にケアプランの作成を行うなど、期待されている役割を十分に果たせるよう、その活動を支援するための取り組みが必要となった。これを受けて、国・各都道府県で関係組織の設置が進み、京都府においても保健・医療・福祉の分野が連携した京都府介護支援専門員協議会が結成(11/23)されることになったこと、また、介護保険委員所属施設のケアマネジャーを対象にしたアンケートで多くの矛盾・問題点が指摘され、これらの諸問題について現場のケアマネジャーが取り組む委員会設置の必要性が高まったことから、介護保険委員会の1プロジェクトとして本委員会が発足することとなった。様々な視点から現場での諸問題を取り上げ、より一層の介護サービスの充実に向けて検討を行ってきた。

### 1 準備委員会

委員長 土屋 均

副委員長 大槻由紀子(蘇生会総合病院居宅介護支援サービスセンター)  
松岡悦子(宇治病院居宅介護支援事業所)

委員 岩澤京子(嵯峨野病院福祉相談室) 桂 節子(京都博愛会病院)  
伊達千代(第二京都回生病院居宅介護支援事業所ケアセンター回生)  
中村隆子(亀岡病院居宅介護支援センター)  
湯浅由美(西陣病院介護保険相談室) 横谷 武(宇治黄檗病院)

担当理事 清水 紘 板坂 勉

開催日 8/29 9/18 10/11 11/27 12/20 1/15 2/26 計7回

### 2 主な活動

- a 各事業所のケアマネジャーが直面している諸問題の分類
- b 看護・介護記録の様式の統一に向けた検討
- c 市町村における行政手続き・書式・記入方法等の情報の集約

## 救急・休日・時間外診療体制の推進

### A 京都府下における二次病院群輪番体制

#### 1 京都市二次病院群輪番体制

京都市(乙訓2市1町含む)の二次病院群輪番制度も発足後20年が経過し、協力病院をはじめ関係医療機関に定着し、京都市域において十分にその役割を果たしている。

平成12年度の協力病院は66病院で、小児協力病院については9病院(及び府病協9病院)による体制となった。協力病院は減少してはいるが、当協会がおこなう当番編成会議も一般・小児ともに非常に円滑な運営ができています。平成12年度は当番編成会議を2回開催した。

担当理事 / 清水幸夫

#### 1) 協力病院一覧(印は小児も担当 \*印は会員外病院)

##### A ブロック = 北区・上京区・左京区

愛寿会同仁 石野 大原記念 上京 京都下鴨 京都学際研附属 京都博愛会  
京都民医連第二 小柳 相馬 富田 西陣 日本バプテスト 浜田 比叡 堀川  
室町 吉岡 洛北 洛陽 \*社会保険京都

##### B ブロック = 右京区・西京区・向日市・長岡京市・大山崎町

太秦 内田 河端 京都桂 京都民医連中央 シミズ 新河端 第二京都回生  
中尾 長岡河上 長岡京 西京都 三菱京都 洛西シミズ \*関西医大洛西  
\*済生会

##### C ブロック = 中京区・下京区・南区

明石 泉谷 大澤(4月まで) 吉祥院 \*京都市立 京都回生 京都九条 京都四条  
京都武田 \*京都通信 京都南 久野 西京 第二大羽 武田 毛利 吉川  
洛和会丸太町

##### D ブロック = 東山区・山科区・伏見区

愛生会山科 医仁会武田総合 大島 小澤 金井 京都大橋総合 京都専売  
共和 桑原 さいわい 清水 蘇生会総合 第一岡本 なぎ辻 原田 洛和会音羽

#### 2) 当システムを利用した入院・外来別患者搬入状況

	12年度	11年度
入院	435	447
外来	2,562	2,309
計	2,997	2,846

搬入されてきた患者が輪番制度の利用によるものかどうか判別できない場合も多く、明らかな患者のみを集計したため、実際の搬入数はこれを上回ると思われる。

3) 補助金(平成12年4月～平成13年3月)(平成11年4月～平成12年3月)

118,476,050円

129,316,490円

運営費補助金単価は国の政策により前年より減少している。

4) 輪番編成会議 2/28 4/21 2/22(平成13年)

当番編成、輪番当番病院心得・業務の確認徹底、補助金申請に関する説明などをおこなった。

2 南山城二次病院群輪番体制

平成7年4月より南山城医療圏(宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町)を対象とした二次病院群輪番制度が発足し、6年が経過した。

12年度も特に問題なく関係医療機関の理解、協力により円滑な運営が行われた。今後更に制度の充実をはかる必要から、本制度を担当する診療日の追加を地元行政に提案するなど、今後も引き続き働きかけることが望まれる。

担当理事/真鍋克次郎

1) 診療日/日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

2) 診療時間/昼間 午前8時～午後6時 夜間 午後6時～翌朝午前8時

3) 協力病院一覧(\*印は会員外病院)

宇治 宇治川 宇治徳洲会 第二岡本総合 都倉 ユニチカ中央 六地藏総合  
京都きづ川 \*国立療養所南京都 ほうゆう \*関西医大男山 京都八幡 八幡中央  
久御山南 田辺中央

4) 当システムを利用した入院・外来別患者搬入状況

	12年度	11年度
入院	53	66
外来	677	508
計	730	574

京都市二次病院群輪番制度と同様に、搬入されてきた患者が輪番制度の利用によるものであることが明らかな患者のみを集計したため、実際の搬入数はこれを上回ると思われる。

5) 補助金(平成12年4月～平成13年3月)(平成11年4月～平成12年3月)

10,124,180円

10,865,770円

運営費補助金単価は国の政策により前年より減少している。

6) 輪番編成会議 4/24 2/6 計2回

当番編成、輪番当番病院心得・業務の確認徹底、補助金申請に関する説明などをおこなった。

- 3 中丹二次病院群輪番体制(舞鶴市・綾部市・福知山市・大江町・夜久野町・三和町)  
中丹地区における本年度の二次病院群輪番制度も順調に運営された。当該地区は対象範囲が広域であり、それによって生じる問題も種々あるが、当協会としても北部の会員病院と共に、今後も引き続き制度の整備に協力してゆく必要がある。

1) 診療日 / 日曜日、祝日、年始年末      2) 診療時間 / 0:00 ~ 24:00

3) 協力病院 \* 印は会員病院

舞鶴市 / 国立舞鶴病院、舞鶴市民病院、舞鶴赤十字病院、舞鶴共済病院

綾部市 / 綾部市立病院

福知山市 / \* 京都ルネス病院 福知山市民病院

## B 京都府救急医療情報システム

医療機関と消防機関および京都府救急医療情報センターとをオンラインで結び救急情報を正確かつ迅速に伝える京都府の救急医療情報システム。これを運営する懇談会に委員を派遣し、当協会の意見を反映させた。同システムについては、14年度から新たなシステムの更新が予定されていることから、機能を十分発揮できる内容にすること 更新に際して関係諸団体との調整を図ること - を府医、府病協とともに要望しており、今後登録できる情報の範囲、利便性、広域的要素などについて、アンケート結果なども参考にしながら協議を行っていくことになる。(資料1)

- 1 京都府救急医療情報システム運営懇談会への当協会からの派遣委員  
清水 紘(担当理事)
- 2 京都府救急医療情報システム運営懇談会 開催日 3/28

## C 京都府周産期医療情報システム

京都府の周産期医療情報ネットワーク事業の核となり京都府全域からの情報を24時間体制で一元管理し、母体・新生児の生命を守る総合周産期母子医療センターが第一赤病院で稼働している。それにともない、府域を北部と南部のブロックに分け、高度医療を提供するサブセンター(2病院) 救急搬送を受け入れる2次病院(16病院)がそれぞれ指定されており、全国平均を下回っていた京都府での救命率は徐々に改善されつつある。

体制整備に必要な調査および情報システムなど周産期医療体制の確立に必要な事項について協議する京都府周産期医療協議会に委員を派遣し、周産期医療情報提供書の記載等について問題提起をした。

- 1 京都府周産期医療協議会への当協会からの派遣委員  
清水 紘(担当副会長)
- 2 京都府周産期医療協議会 開催日 3/9

## 救急医療をめぐる問題への取り組み

### A 救急医療委員会

当協会の救急担当理事と会員病院の代表から構成される当委員会で、救急医療に関わる問題について検討した。12年度は特に、京都府救急医療情報システム更新に際しての要望、救急に関するアンケート調査の実施、くも膜下出血の救急医療体制の検討 - などをおこなった。12年度から府医の救急委員会には精神科および脳外科の小委員会が発足し、専門性のある議論によって、きめ細かな体制整備を目指していくことになった。当委員会としても、府医での検討と並行して、民間病院の立場で検討を進め、理事会等で報告した。アンケート調査は府医師会とも合同で実施し、国公立の救急病院も含め100件近くの回答を得ており、この結果をまとめ、今後のシステム整備に反映させていくことになっている。

#### 1 委員会

委員長 吉川順介

委員 中野博美、真鍋克次郎、清水幸夫（以上、理事） 石丸庸介（田辺中央病院）  
大橋一郎（京都大橋総合病院） 武田隆久（武田病院） 山本 潔（洛陽病院）

開催日 6/27 9/26 10/24 11/28 12/19 3/6 4/24 計7回

#### 2 京都府救急医療情報システムの更新にあたっての要望 12月27日（府医、府病協連名） （資料1）

#### 3 救急医療に関する会員アンケート調査 1月

### B 救急搬入事故対策委員会

毎月第3金曜日を定例日として、11回開催した。病院経営が医療保険の抑制による圧迫を受け、また救急診療体制を維持し続けるには多大なコストがかかる状況のなかで、交通事故医療を中心とする自由診療分をどのように回収していくかが、取り扱い担当者の課題になっている。当委員会では、救急搬入および自動車保険への治療費請求に付随する諸問題について、会員病院の結束を図りつつ対策を検討した。また会員から出された苦情や意見に対応した。

自賠責保険のあり方については、中央の自賠責審議会で議論が続けられ、これまでの制度を評価しつつ、保険給付の見直しや支払い適正化のための措置などを提言した答申が出された。当委員会としても自賠責保険制度を検討し、 傷害時の限度額の引き上げ 休業損害、慰謝料と治療費に対する補償を別枠にすること 任意一括でも自賠限度額の範囲までは過失相殺を自賠の基準で扱うこと - を関係各方面に要望した。金融業界再編の波を受けて自動車保険業界も変動が起きており、ひいては医療費の支払いにどう影響してくるのか、今後の委員会で注視していきたい。

年に1度、自賠責保険担当者を対象に開催している講習会では、京都における過去からの

自動車保険の歴史について学んだ。自賠制度の仕組みを立体的に理解する上で、大変参考になった。今後もテーマを絞っての講習会開催を企画していきたいと考えている。

## 1 委員会

委員長 齊藤嘉甫

副委員長 伊東宗晃（泉谷病院 ～平成 12.10） 小中宏三（シミズ病院 ～平成 12.7）

委員 小野寿義（八幡中央病院 ～平成 12.9） 片山幸裕（京都南病院）  
岸本啓介（京都民医連第二中央病院） 廣瀬良太（洛和会音羽病院）  
村崎真生（蘇生会総合病院） 山崎百代造（武田病院）  
立仙俊彦（第二京都回生病院） 高野 進（シミズ病院 平成 12.9～）  
風見英宏（八幡中央病院 平成 12.12～）

担当理事 中野博美

2 開催日 5/25 6/16 7/28 9/22 10/20 11/21 12/15 1/19 2/16 3/23 4/20 計11回

## 3 主な活動

a 2000年度自賠責保険担当者講習会の開催（5月）

5月26日 京都府医師会館 参加 80名

テーマ「京都に於ける交通事故医療と保険」 講師/中野 進（医療法人啓信会会長）

b 自賠責保険について改善の要望（6月）（資料2）

c 重過失や物損事故の取扱について（6、7、9、10月）

d 自賠責審議会答申について（7月）

e 自賠責担当者情報交換会の開催について（9、11月）

11月29日 京都府医師会館 参加 59名

f 自賠責保険請求マニュアルの発行について（12、1、2、3、4月）

g 2001年度自賠責保険担当者講習会の開催（1、2、3、4月）

h 自賠責保険の事業概況について（2月）

i 業務上の問題点（情報交換）

## 在宅医療等への取り組み

### A ホームヘルパー養成事業

急激な高齢化と核家族化の進展、女性の社会進出等により、福祉サービスを必要とする人々が増えており、住み慣れた地域で心豊かに生活が送れるような福祉社会をつくっていくことが重要な課題となっている。このためには、地域福祉を支える福祉人材の養成確保を図る必要がある。

ホームヘルパー養成事業は高齢者の増大かつ多様化するニーズに対応した適切なホームヘルプサービスを提供するため、必要な知識、技能を有するホームヘルパーの養成を図る目的で行われている。また、平成12年4月の介護保険制度の施行にともない、都道府県知事による指定に改正された。今年度から京都府知事の指定を受けて実施した。

本年で5年目を迎えたこの事業も、本年度は2回開催し、11期40名、12期15名に京都府指定のホームヘルパー養成研修2級課程の修了証が授与された。

#### 1 ホームヘルパー養成事業運営委員会

委員 / 大澤 直 (委員長=担当副会長)、中野種樹 (担当副会長)、板坂 勉 (担当理事)、中谷泰幸 (事務長会常任委員)、加藤きみ子 (婦長部会総務委員)、吉田多美 (私病協事務局長)

#### 2 ホームヘルパー第11期募集内容

募集定員 / 40名      料金 / 83,000円

学習期間 / 約6ヶ月      開催日 / 平成12年5月27日

通学学習 / 実技スクーリング全8日間 (土曜日)

5/27 6/3 6/17 6/24 7/8 7/15 7/29 11/11

時間 / 9:00 ~ 18:00

場所 / 京都保健衛生専門学校      講師 / 京都保健衛生専門学校教員他

自宅学習 / 全6回      実習 / 平成12年8月~10月 (3~4日実施)

実習施設 / 紫雲苑、白寿、ふないの里、ぬくもりの里、平成、アゼリアガーデン、ケアセンター回生、第二アールそせい、いわやの里、ヴィラ山科

#### 3 ホームヘルパー第12期募集内容

募集定員 / 40名      料金 / 83,000円

学習期間 / 約6ヶ月      開催日 / 平成12年8月26日

通学学習 / 実技スクーリング全8日間 (土曜日)

8/26 9/2 9/16 9/30 10/7 10/21 11/4 2/17

時間 / 9:00 ~ 17:30

場所 / 京都中央看護専門学校      講師 / 京都中央看護専門学校教員他

自宅学習 / 全 6 回

実習 / 平成 12 年 11 月 ~ 13 年 2 月 ( 3 ~ 4 日実施 )

実習施設 / 紫雲苑、白寿、いわやの里、ぬくもりの里、アゼリアガーデン、  
ケアセンター回生、第二アールそせい、ふないの里、ヴィラ山科

## B 京都SKYサービス研究会への参画

「人生80年時代にふさわしい社会システムの構築に資する」という財団法人京都SKYセンターの設立目的実現の一環として、シルバーサービス関係に關心・実績のある民間企業・団体で構成される京都SKYサービス研究会に当協会も参画している。同研究会の在宅福祉サービス分科会には当協会から理事が出席し、高齢者のための健康生活セミナー、シルバーサービス振興会委託事業などについて意見を述べているが、12年度の開催はなかった。

平成12年度「京都SKYセンター法人会員の会」が3月23日、からすま京都ホテルで開催され、当協会は長期法人会員表彰として表彰された。

京都SKYセンターは介護保険制度の発足を機に、介護保険事業における住宅改修事業者及び福祉用具供給事業の従事者研修に力を入れ、数度に亘り開催された。また、シルバーサービス振興会が主催する月例研究会の案内が会員には送付され、介護保険を中心とした高齢者対策の様々な問題について学ぶ場となっている。

### 1 研究会への当協会からの派遣委員

松本真一、久野成人

## 【学術研修部】

### 京都病院学会

#### A 第35回京都病院学会

今回は「感染症」をテーマに取り上げた特別講演を開催し、タイムリーかつ非常に分かりやすい内容で、好評であった。また、一般演題では各部門において活発な質疑応答が見られ、これは日常の医療活動を通じた第一線の臨床現場での研究成果を発表しあう貴重な場として、本学会が大きな評価を得ていることによると思われる。

6月11日(日)9:00～17:00 於：京都府医師会館

参加者総数 1,193名 演題 計233題

特別講演 「薬剤耐性菌感染症に対する対策」

講師 一山 智(京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学教授)

##### 1 各種会議開催日

理事会 12/21 1/11 2/1 3/7 4/4 5/2 6/6 7/4

実行委員会 2/1 3/7 4/4 5/2 6/6

プログラム編成委員会 3/30

展示業者説明会 5/19

反省会 7/4

##### 2 学会役員

学 会 長 大澤直

副学会長 清水紘、齋藤信雄(NTT西日本京都病院)

理 事 真鍋克次郎、梶並稔正、吉川聡、久野成人、小森直之、  
岡隆宏(京都第一赤十字病院)、松原義人(京都桂病院)、  
倉澤卓也(国立療養所南京都病院)

監 事 大槻秧司、村田真司(三菱京都病院)

##### 3 実行委員

実行委員長 真鍋克次郎

副実行委員長 岡 隆宏

実行委員長補佐 小森直之

実行委員 事務 鹿島健二(大澤病院)、蔭山清司(京都桂病院)

看護 西岡和子、山名千代、佐々木美恵子(NTT西日本京都病院)、  
千々石八重子(京都第一赤十字病院)

薬剤 森下菊雄(京都南病院)

臨床検査 林 彰彦(京都市立病院)  
 臨床工学 泉田洋志(京都保健衛生専門学校臨床工学技士専攻科)  
 栄養管理 五十嵐千恵子(毛利病院)  
 放射線 長野和弘(大島病院)  
 リハビリ 並河 茂(京都市立病院)  
           上垣幸衛(京都市身障者リハビリテーションセンター附属病院)  
 学校教務 岩下チエ子(京都保健衛生専門学校看護学科)  
           相良郁夫(京都保健衛生専門学校検査学科)  
           大澤みどり(京都中央看護専門学校)

## B 第36回京都病院学会の開催にむけて

平成13年6月10日(日)の開催にむけて、昨年12月より理事会が、本年2月より実行委員会  
 が定例開催され準備が進められている。

一般演題には207題の応募があり、プログラム編成委員会での検討の結果、全題採用するこ  
 ととなった。また、今回も一般演題に医療事故防止対策部門を設け、事故防止の関連したテー  
 マで、各部門から一同に会して発表を行うことになった。

特別講演では「患者が医療に望むこと」のテーマで、辻本好子氏(ささえあい医療人権セン  
 ターCOML代表)にご講演いただくことが決定している。

### 1 学会役員

学 会 長 齋藤信雄

副学会長 岡 隆宏、清水 紘

理 事 松原義人、倉澤卓也、澤田 淳、真鍋克次郎、吉川 聰、小森直之、梶並稔正、  
 久野成人

監 事 村田真司、大澤 直

### 2 実行委員

実行委員長 松原義人

副実行委員長 真鍋克次郎

実行委員 事務 東 一行(NTT西日本京都病院)、辻井基晴(京都南西病院)  
 看護 佐々木美恵子、三嶋明子(京都桂病院)、西岡和子、  
 澤井美智子

薬剤 大西敏之

臨床検査 林 彰彦(京都市立病院)

臨床工学 只 重喜(桃仁会病院)

栄養管理 大田哲司(京都市立病院)

放射線	川田 明(第二岡本総合病院)
リハビリ	並河 茂(京都市立病院) 上垣幸衛(京都市身障者リハビリテーションセンター附属病院)
学校教務	齋藤祥乃(京都保健衛生専門学校看護学科) 後藤直樹(京都保健衛生専門学校検査学科) 岡田由岐子(京都中央看護専門学校)

## 教育・研修

### A 教育訓練初級コース

会員病院の新入職員・初級職員を対象とした教育訓練初級コース(接遇訓練)は毎年春に開催している。病院職員としての基本的知識の心得を修得し、一日も早く医療機関における組織人としての自覚を持つことを目的としたこの研修会は、現在では会員病院に定着し期待も大きい。

#### 1 京都市内開催

5月16、25日 於：京都府医師会館

参加者 / < 5月16日 > 35施設 104名、< 5月25日 > 37施設 102名

講師 / 立川義博(人材育成研究所所長)

#### 2 北部地区開催

7月15日 於：舞鶴メディカルセンター

参加者 / 14施設・1校 91名

講師 / 立川義博(人材育成研究所所長)

北部での開催については、福知山市と舞鶴市で毎年交互に実施している。今回は舞鶴での開催となり、舞鶴医師会との共催で行った。

### B 看護卒後教育

看護の卒後教育に関する企画・運営は、卒後教育検討委員会でおこなっている。本年度は、「看護中間管理者研修(主任コース)」を4月から翌年2月までの計11回、「看護中間管理者研修(婦長コース)」を9月から11月までの間で計6回開催した。また、「リーダーシップ研修」を卒後3年目の看護職員対象コースと参加対象限定なしコースに分けて、それぞれ2日間にわたり開催した。そのほか、「准看護婦3日間研修(看護過程を学ぶ)」を3月に開催、「看護補助者研修」を4月に開催し、大きな成果をあげた。

#### 1 卒後教育検討委員会

委員長 高橋美津子

委員 西岡和子、新井靖子、石崎友里子、小川百合子、佐々木美恵子、畠中一栄、  
原ムツ子、前坂外喜子、澤井美智子、村瀬浩子、森洋子、高尾幸栄、塩見千恵子、  
池西静江

## 2 中間管理者研修（主任コース）

参加者 / 61名 修了者 54名

会場 / 京都中央看護専門学校（第9回のみ京都府医師会館）

4/27 「そして私はここにいる～生物としての人～」

講師 / 西澤いづみ（京都中央看護専門学校非常勤講師）

5/22 「看護研究」

講師 / 西田 晃（元藍野看護短期大学教授）

6/27 「青年心理」

講師 / 秋葉英則（大阪教育大学副学長）

7/24 「交流分析」

講師 / 水野正憲（岡山大学教授）

8/22 「P.O.S（問題解決技法）」

講師 / 中木高夫（名古屋大学医学部保健学科教授）

9/26 「看護診断」

講師 / 中木高夫（名古屋大学医学部保健学科教授）

10/26 「看護記録の実際」

講師 / 上野範子（京都府立医科大学医療技術短期大学部助教授）

11/20 「看護管理」

講師 / 高嶋妙子（聖隷浜松病院・顧問）

12/7 「魅力づくりへのアドバイス」

講師 / 中原藤子（教育コンサルタント）

1/24 「グループワーク」

講師 / 藤田敬一郎（地域活動研究所代表）

2/22 「グループワーク」

講師 / 藤田敬一郎（地域活動研究所代表）

## 3 中間管理者研修（婦長コース）

参加者 / 42名 修了者 40名 会場 / 京都府医師会館

### 1) 組織運営と教育

10/13 「病院組織と看護組織および職場の活性化」

講師 / 林 三夫（ハヤシ経営研究所）

悪天候のため9/12から延期になりました。

9/26 「現場での部下の育成」

講師 / 高嶋妙子 ( 聖隷浜松病院・顧問 )

2) 看護要員および看護体制と会議運営

10/3 「院内教育と婦長のかかわり」

講師 / 松山澄子 ( 市立福知山市民病院看護部長 )

10/17 「各種会議・カンファレンスの持ち方、助言のしかた」

講師 / 杉野元子 ( 看護組織開発研究所代表 )

3) マネージメント

11/8 「今後の医療情勢と医療運営」

講師 / 天野圓 ( 特定医療法人大道会常務理事 )

「婦長のリーダーシップ」(最後の総まとめのいみで)

講師 / 杉野元子 ( 看護組織開発研究所代表 )

11/24 「病棟管理等の評価」

講師 / 前田マスヨ ( 元東海大学医学部附属病院看護部長 )

4) リーダーシップ研修

a 卒後3年目限定コース

6月13日 6月20日 於：京都府医師会館

講師 / 黒木保博 ( 同志社大学文学部社会学科教授 ) 参加者 / 79名

b 参加対象限定なし

7月4日 7月10日 於：京都府医師会館

講師 / 立川義博 ( 人材育成研究所所長 ) 参加者 / 76名

5) 准看護婦3日間研修

3月15、16、17日 於：京都保健衛生専門学校 参加者 / 31名

講師 / 塩見千恵子 ( 京都保健衛生専門学校副校長 )

高橋みどり ( 京都保健衛生専門学校看護学科教務主任 )

岩下チエ子 ( 京都保健衛生専門学校看護学科教務主任 )

6) 看護補助者研修

4月11日 於：京都府医師会館 参加者 / 91名

講師 / 立川義博 ( 人材育成研究所所長 )

## C 保健医療管理者養成講座

病院管理の重責を担う管理職の経営・管理の技法の向上が強く求められるとともに、量的な充実も必要となってきた。しかし、わが国では医療機関管理者の養成機関としては、近年、大学において講座開設がぼつぼつ始まってきてはいるものの、働きながら学ぶ場は少ないのが実情である。

当協会では、会員病院の職員を対象とした経営・管理に必要な基礎知識の修得と実践に役立つ応用能力を養う教育を継続実施することを目的に講座を開講して10年を迎え、本年度修了生20名を加えて総勢161名が巣立ったことになる。保健医療管理士の称号を持つ修講生は、会員施設においてトップ管理者として、また、中堅管理者としてその役割を果たしている。

10期生より厚生労働省の教育訓練給付金制度の指定講座となることが出来、少しでも受講しやすい環境を整えることができた。

これに伴い保健医療管理士の認定は、新たに認定基準を設け、基準に則り秋に挙行される私病協創立記念式典において認定書の授与が行われることとなった。

1 第10期生入講式 4月15日 於：京都アスニー 入講生 20名

入講記念特別講座 4月15日 於：京都アスニー

「医療保険と介護保険」講師：油谷桂朗府医師会副会長

2 認定委員会 平成13年3月7日 於：医師会館

受講生20名全員の修了が認定された。

3 終講式 平成13年3月24日、於：京都全日空ホテル

4 運営委員

委員長 / 大槻稔司 (担当副会長)

委員 / 中野種樹 (担当副会長)、板坂 勉 (担当理事)、山口孝男 (事務長会委員長)、

秋山俊二 (事務長会副委員長)、高橋美津子 (婦長部会副部長)、

大槻 均 (一期生)、茨木孝二 (保健医療管理士会会長)、河上嘉秀 (学校事務局長)、

吉田多美 (事務局長)

## D 医療事故防止研究会

本年度の新たな取り組みとして、多発する医療事故を防ぐにはどうすればいいのかを研究する会を学術研修部のなかに設置した。

平成11年1月に横浜市立大学医学部附属病院において手術患者の取り違い事故が発生し、大きな問題となったが、これ以降、マスコミに医療事故が取り上げられない日はなく、早急な対策が求められている。国を始め、各医療機関、医療系の各職能団体などそれぞれの立場で事故の原因究明とそれに基づく事故防止策が検討されているが、当協会としてもそれらを活用しながら、比較的規模の小さな病院の多い会員の身の丈に合った事故防止策を研究し、

会員に提供することを目標に会の運営がおこなわれた。

今年度は情報の収集と取り組みの方向の検討に大方の時間をついやすしたが、来年度には具体的なマニュアル等を作成していくことにしている。

### 1 委員会

委員長 大槻秧司(担当副会長)

委員 真鍋克次郎(担当理事) 清水正啓(医師代表) 中谷泰幸(事務長会代表)

高岡みな子(婦長部会代表) 森下菊雄(薬局長会代表)

井上博志(放射線技師会代表) 国永清光(臨床検査部会代表)

中森京美〔栄養士部会代表〕

2 開催日 7/25 8/22 10/3 11/21 12/5 1/17 2/13 計7回

### 3 主な活動

a 事故防止研の当面の案としての・事故防止委員会規程、・インシデントレポート、・アクシデントレポートを作成し、希望する会員に提供した。

b 地区会議や各委員会において事故防止研究会の取り組みの状況を説明し、事故防止に関して各病院の関心を高め、取り組みを促した。

## E 在職者向けIT訓練講座

政府では「日本新生のための新発展政策」の一環として、在職者対象IT訓練講座を最重要課題として実施している。これを受けて雇用・能力開発機構京都センターの委託により、情報格差解消のためのIT職業能力習得機会の提供およびITに係る業務上必要な能力の習得を目的とした講座を今年度より新たに設け、主に会員病院の全職種の従事者を対象に開催することとなった。今年度については、パソコン初心者を対象とした初級講座を開催した。また、13年度4月開催の初級講座(4講座)の案内を会員病院に送付した。中級・上級講座の開催も含めて、今後も従事者のさらなる情報処理技術能力の向上が望まれる。

初級講座(中央看護 -Aコース、 -Bコース)

参加者/両講座とも20名 会場/京都中央看護専門学校

日程/ -A 2/28 3/7 3/14 3/21 3/28 4/4 4/11 計18時間

-B 3/1 3/8 3/15 3/22 3/29 4/5 4/12 計18時間

講師/坂部智子氏(有限会社アクションケイ取締役) 他

内容/パソコンの基本操作の習得(マウス・キーボード操作)

ワープロソフト「word」で「お知らせ文書」作成

インターネットとe-mailを体験

表計算ソフト「Excel」で「計算式を入れた表を作成」

## F 医療経営セミナー

昨年来、相次いで医療事故が発生しており、医療機関や医療従事者に対する国民の信頼が揺らいできている。医療事故は病院経営に重大な影響を与えかねず、今やリスクマネジメントは病院経営にとって必要不可欠となっている。こうした状況を踏まえ、会員施設の管理的立場にある従事者を対象として、医療の安全性を確保・向上するための方策についての講演会を開催した。

開催日 / 11月24日 会場 / 京都全日空ホテル 参加 / 59施設 164名

テーマ・講師 /

「～医療事故は何故繰り返されるのか～ リスクマネジメントへの取り組みを考える」

萩原輝久（株式会社ヘルスケア経営研究所所長）

「医療の質向上をめざして ～NST活動を中心に～」

濱田正行（鈴鹿中央総合病院院長）

座長 / 松井道宣

共催 / ダイナポット株式会社

## 【経営部】

### A 民間病院に対する補助制度への対応

平成5年度からスタートした民間病院の施設整備および運営改善両面からの支援事業も8年目を迎えたが、補助制度も医療の適正化対策の一環としての位置付けが濃厚となってきており、病床を削減してアメニティーを高めること、また、政策医療を実施することが補助の対象となり、誘導策がとられている。本年度も引き続き国の景気刺激対策に伴う第2次補正があり、療養型病床への転換およびIT化を中心に補助が実施されたが、国における予算の決定から具体的申請手続きまでの時間が短いいため、相変わらず病院にとっては非常に使いづらい制度である。しかし、私病協としては会員の要望を最大限かなえるために、所轄の府医療・国保課と十分連携をとりながら情報提供や事態の收拾を行った。

#### 1 医療施設等施設整備事業

a) 看護婦宿舎施設整備事業：	1病院	60,615千円
2 医療施設近代化施設整備事業：	6病院	865,339千円
3 病院内情報システム整備促進事業	1病院	19,845千円
4 医療用画像等高速医療情報ネットワーク推進事業：	1病院	9,187千円
5 周産期医療医師派遣促進補助金：	3病院	480千円
6 公的病院等特殊診療部門運営費補助		
1) 救急医療施設：	18病院	121,611千円
2) 在宅医療施設：	5病院	30,319千円
7 院内保育事業運営費補助：	26病院	104,578千円
8 院内保育奨励会：	6病院	1,500千円
9 救急医療機関等助成事業：	92病院	34,072千円

### B 入院環境整備委員会

入院環境整備委員会では、従来からの寝具や病衣の安定供給や品質改良への取り組みのみに止まらず、患者の療養環境の整備に関する全ての事項を対象に活動を展開している。

本年度は特に目立った活動はなかったが、京都府病院協同組合との連携のもと、規制緩和の情勢下で進行する寝具業界の変動に着目し、引き続き会員病院が厚生省の示す基準に則った適正な寝具類を使用するよう呼びかけている。なお、病院協同組合の指定業者とは定期的に懇談をもち、各種の情報交換を行うとともに寝具類の衛生管理の徹底および安値安定供給体制の強化について要請した。また、委員会では引き続き、病衣の改良と情勢に応じた対応策の研究を行うことにしており、さらに今後は院内脱臭対策、マットレスパットのリース契約などの検討を行っていきたいと考えている。また病院協同組合からの要請を受け、指定業

者の洗濯工場の視察を行い、各社の遵法体制を引き続き確認していくことも必要と思われる。

#### 1 入院環境整備委員会

委員 / 吉川順介(副会長=委員長) 山口孝男(担当理事) 石原良次・上田正紀・  
恩田啓一・佐藤 修・永井佑二(事務長会代表) 中川美代子・木下朋子(婦長部会代表)

### C 感染性廃棄物処理問題委員会

入院環境整備委員会の検討項目のひとつであった感染性廃棄物処理に伴う諸問題をより詳細に検討するため、平成11年度に「感染性廃棄物処理問題委員会」が設置された。

委員会では11年2月に「感染性廃棄物処理状況調査」の中間集計をおこなったが、12年度7月には病棟種別に診療費用に占める処理費用の割合について2次調査を実施した。会員へは適正な処理の重要性を呼びかけるとともに、それに伴う多額の処理費用への財政措置を含めた諸施策の構築について地元行政をはじめ関係各方面に訴えていくことを検討している。

廃棄物の排出処理業者責任の強化を盛り込んだ改正廃棄物処理法案が成立し、そのうちの多くが13年4月から施行されている。これに医療機関が的確に対応できるよう、厚生省のプロジェクトチームが検討した結果を報告書をまとめており、各方面の環境整備も整いつつある。

#### 1 感染性廃棄物処理問題委員会

委員 / 中野種樹(副会長=委員長)  
永井佑二・吉岡久雄(事務長会代表) 須川裕子・福田さよこ(婦長部会代表)

開催日 8/9

#### 2 感染性廃棄物処理に伴う病院の負担に関する実態調査(2次調査) 7月

### D 薬事委員会

医薬品の購入価格に関する活動を行っており、本年度も昨年度と同様に購入価格調査を行った。価格調査の品目は、内服128品目・注射72品目・外用32品目にグロブリン製剤の限定品目と後発品28品目を加えて行い、後日その全データをコンピュータ処理して、回答施設へ資料として返した。今回も前回と同様に郵送による回答方式(無記名)で行った。また同時に医薬品購入等に係わる実態調査も行い、集計を回答施設へ資料として返すとともに、委員会で内容を検討した。拡大委員会を開催し、購入価格調査と医薬品購入等に係わる実態調査の結果報告を行った。

9月には京都府医薬品卸協同組合に依頼し、「薬価改定後の薬価差縮小の要因」「医薬品卸の現状」「医薬品卸・メーカー間の現状」について講演会を行った。4月には医薬品メーカーに依頼し、「MR活動のポイント-過去と現在-」「病院におけるMR活動」「メーカーから

見た卸の役割」について講演会を行った。

## 1 委員会

委員長 吉川順介(副会長=担当)

副委員長 吉田庄一(福知山紅葉丘病院) 山田 剛(清水病院~平成13.1)  
加藤恵三(平成13.3~)

委員 加藤恵三(~平成13.2) 桑原和典(堀川病院)  
佐藤ひろ子(京都博愛会病院) 山元 隆(上京病院~平成12.10)  
野田保二(上京病院平成12.11~) 狭間由浩、  
吉村成年(第二岡本総合病院~平成12.8)  
石田 誠(第二岡本総合病院平成12.10~)  
竹内展也(清水病院平成13.2~)

開催日 5/15 6/19 7/17 9/18 10/16 12/18 2/19 3/16 4/16 計9回

## 2 主な活動

### a 医薬品購入価格調査

アンケート実施10月 集計表送付1月 回答施設48施設

### b 医薬品購入に係わる実態調査

アンケート実施10月 集計表送付1月 回答施設48施設

### c 講演会

9月18日 参加者/33施設 44名 於・京都府医師会館  
テーマ/「薬価改定後の薬価差縮小の要因」「医薬品卸の現状」  
「医薬品卸・メーカー間の現状」

講師/山口 勲氏(株式会社ケーエスケー 京滋営業部長)

片島義宏氏(株式会社アズウェル 執行役員)

松石正昭氏(株式会社クラヤ三星堂 執行役員)

4月16日 参加者/25施設 28名 於・京都府医師会館

テーマ/「MR活動のポイント-過去と現在-」「病院におけるMR活動」  
「メーカーから見た卸の役割」

講師/植木清一郎氏(中外製薬株式会社 京都支店長)

中西英昭氏(田辺製薬株式会社 京都支店長)

立花鐵夫氏(三共株式会社 京都支店長)

### d 拡大委員会

4月16日 参加者/25施設 28名 於・京都府医師会館

## E 購買担当者会議

京都府病院協同組合との共同事業として開催している本会議も18年が経過した。近年、病院の経営環境は悪化の一途を辿り、各病院とも経費節減策の一環として購買業務の見直しを行うなど経営改善の気運が高まってきている。

そのような状況の中で、本会議に対する購買担当者の関心も確実に強まっており、回を追うごとに盛況になってきている。

本年度は1回の開催となった。会議では価格情報交換とオムツの情報交換と臨床検査の動向について企画した。その成果は共同購入による安値安定供給システムの推進に大いに役立つとともに、多くの消耗品について各メーカーが協同組合に触発される形で値下げを実施するなど波及効果をも生み出している。

### 1 7/13 テーマ「レントゲンフィルムの価格情報交換とオムツの情報交換と臨床検査の動向について」

参加者 / 49施設 53名

## F 融資斡旋

### 1 年末融資斡旋

説明会を11月6日に、申し込み受付を11月21日に行った。本年度も京都府救急告示病院等運転資金融資制度の対象病院の拡大および融資額(1法人・1個人病院)の増額を要望したが、今年度も昨年と同額であった。また、利率についても引き下げとならず、昨年と同率であった。その結果、本年度の融資総枠17億円を全て斡旋できなかった。会員からは、さらに対象病院の拡大と融資額の増額を求める声が多くあがっている。

京都府救急告示病院等運転資金融資制度の実施状況は次のとおりである。

病院数 / 17 総額 / 7億9,500万円

限度額 / 5,000万円(1法人で複数病院を有する場合は1億円)

期間 / 3年以内(据置6か月以内)

利率 / 2.5%

### 2 中信病院職員ローン

発足14年目の会員病院の職員向ローンは、京都中央信用金庫の全店で受付けており、保証人の要らないものである。

制度の概要と利用状況は次の通りである。

融資限度額 / 病院職員カードローン 30万円

病院職員ローン 500万円

利息(保証料込み) / カードローン 12.1%

ローン		8.65%
返済期限 / カードローン	3年 (継続の場合再手続要)	
ローン	最長5年	
3月31日現在の利用 / カードローン	96件	25,929,000円
ローン	2件	3,197,437円

### 3 京信メディックローン

病院の幹部職員を対象に、京都信用金庫と締結して19年目になる。しかし、対象者が幹部職員と限られており、保証人が要ることもあり、利用は今年度もなかった。

制度の概要と本年度の利用状況である。

融資限度額 / 300万円

利息 / 1年以内 長期プライムレートイコール

3年以内 長期プライムレートイコール + 0.2%

5年以内 長期プライムレートイコール + 0.4%

利用件数 / 0件

## 【厚生部】

### A 第36回病院対抗野球大会の開催

京都府知事杯争奪第36回病院対抗野球大会は、4月29日より横大路グラウンドにおいて開催され、雨天による延期もなく全4日間の激戦が繰り広げられた。

毎試合とも熱戦が続く中、桃仁会病院・京都民医連中央病院・大原記念病院・洛和会音羽病院が準決勝まで勝ち進み、準決勝は2試合とも1点差の好ゲームとなり、決勝戦では手に汗握る大接戦の末、桃仁会病院が2度目の栄冠を手にした。

桃仁会病院は5試合でわずか2失点と、正にチームが目指してきた“守りの野球”を最後まで貫徹し、選手が一丸となって一戦一戦を戦い抜いた末の優勝であった。

開催日 / 4/29 4/30 5/14 5/28 会場 / 京都市横大路グラウンド 参加 / 42チーム  
優勝 / 桃仁会病院 準優勝 / 京都民医連中央病院 3位 / 大原記念病院、洛和会音羽病院  
協賛 / 株式会社 セレマ

実行委員会

開催日 2/17(平成12年) 於: 京都府医師会館

実行委員長 川田 明(第二岡本総合病院)

副実行委員長 鳥本宏一(京都九条病院)

実行委員 岸本勝也(長岡病院) 小寺 勝(医仁会武田総合病院)

八木勝之(蘇生会総合病院) 八木利之(洛和会音羽病院)

担当理事 梶並稔正 久野成人

組合せ抽選会

開催日 3/24(平成12年) 於: 京都府医師会館

### B 第23回病院対抗女子バレーボール大会

23回を数えた大会も順調に試合がおこなわれ、予定通り3日間で全日程を終了した。大会運営には実行委員会あたり、実行委員、審判員、協賛企業など関係者各位の協力をいただいた。

大会結果は、宇治徳洲会病院が宇治黄檗病院を振り切り、2年連続の優勝を手にした。技術面でのチーム差は少なく、勝敗を左右する場面でいかにミスを減らすかが大きなポイントであった。会員の親睦と交流が深まり、今後の大会がさらに盛り上がることを期待したい。

開催日 / 9/15(京都市体育館) 9/23・10/8(京都市横大路体育館)

参加 / 46病院50チーム

優勝 / 宇治徳洲会病院 準優勝 / 宇治黄檗病院

第3位 / 岩倉病院、共和病院

協 賛 / 株式会社 公益社

実行委員会・組合せ抽選会 8月11日 於：京都府医師会館

実行委員長 金子正史（京都博愛会病院）

実 行 委 員 仲田昌司（三菱京都病院） 中野敦之（京都武田病院）

森田義治（第二岡本総合病院） 吉村修一（西陣病院）

若林貞弘（京都南病院）

担 当 理 事 梶並稔正 久野成人

## 【京都保健衛生専門学校】

超高齢化と少子化の社会の到来は、国の医療・福祉の見直しを余儀なくしている。年金制度の空洞化や長期の不況、不良債権の山等々、人々の生活は厳しさと不安にさらされている。平成12年4月から介護保険制度が開始された。18歳人口の減少が続くなか、構造的な不況ともあいまって医療系専門学校でも卒業生の深刻な就職難と入学生の応募者減となって現れている。

当校ではこれらの時代の変動に対応すべく平成10年度から看護学科二年課程全日制と臨床工学技士専攻科を発足させている。また、専門学校制度の社会的な評価が定着し、単位制の導入や大学への編入制度が本格的に稼働し始めている。単位の互換や編入制度の活用、医療機関への人材提供の仕方での工夫などフレキシブルなカリキュラム構成と運用が求められてきている。平成12年度の概要を以下に報告する。

学校法人役員・評議員の改選と清水紘理事長、大澤直校長、松 事務局長の就任

平成13年3月の役員改選で清水幸太郎校長、松本眞一理事、栗岡成人理事、河上嘉秀理事が退任となり、以下の役員が選任された。

理事長 清水 紘	理事(校長)大澤 直	理事 吉岡秀憲	理事 中野種樹
理事 大川原康夫	理事 近藤泰正	理事 武田隆久	理事 富田哲也
理事 三上 勝利	理事 松 祥三	監事 大橋一郎	監事 仁田恭三

### (2) 医療系専門学校のカリキュラム改定と学校教育法等の一部改正

少子化、高齢化、医療の高度化・専門化など取り巻く環境の変化に対応し、広い視野と人間性を養い、教育内容の弾力化や履修の負担軽減等をはかるため、養成所指定規則や学校教育法の改定が行なわれ、平成12年度から臨床検査技師養成所指定規則の改定が行なわれた。

< 臨床検査技師養成所指定規則改定の要点 >

教育内容の表示が大綱化され、各養成校の自主性や創意にゆだねられる意図となっている。

単位制の導入

専任教員数の増加

教育用の機械器具、標本・模型の整備

臨地実習の実習施設要件の緩和

< 養成所指定規則・学校教育法改定の動き > ( 下記は施行日 )

平成9年4月 看護婦3年課程のカリキュラム改定

平成11年4月 看護婦2年課程のカリキュラム改定

平成11年4月 専修学校設置基準の一部改正(他の専修学校における授業科目の履修等の認定、入学前の授業科目等の認定)

- 平成11年4月 学校教育法等の一部改正（専修学校専門課程修了者の大学編入学）  
 平成11年4月 学校教育法等の一部改正（中高一貫教育制度の導入、中等教育学校の創設）  
 平成12年4月 臨床検査技師養成所のカリキュラム改定

## 学 校 行 事

（平成12年度）

- 4月12日 入学式  
 12日 保護者会（看三・看二全・一臨・二臨1年生）  
 17日 第46回臨床検査技師国家試験合格発表  
 18日 第13回校務運営会議（第2期）  
 19日～20日 学外学習（看二定時2年生）  
 20日～21日 看護学科学生健康診断  
 21日～22日 学外学習（看二全日1年生）  
 22日～23日 学外学習（看三1年生）  
 27日～28日 学外学習（看二定時1年生）  
 5月10日・29日 ツベルクリン反応検査  
 16日 第7回学校法人理事会・第2回学校法人評議員会（第2期） 於本校  
 18日 全国臨床検査技師教育施設協議会春期総会 於東京医科歯科大学  
 19日 臨床検査学科学生健康診断  
 23日 日本看護学校協議会総会・学校長会議 於アルカディア市ヶ谷私学会館  
 25日 第14回校務運営会議（第2期）  
 26日 京都府看護学校連絡協議会第1回定例会 於本校  
 6月6日 体育祭 於：府立体育館  
 10日 日本臨床工学技士教育施設協議会総会 於大阪ハイテクノロジー専門学校  
 13日 高校教員向け学校説明会 出席30校30名  
 16日 私病協向け入学試験説明会 出席32施設35名  
 18日～23日 修学旅行（一臨2年生）オーストラリア方面  
 20日 第15回校務運営会議（第2期）  
 28日 臨床工学技士専攻科健康診断  
 7月1日 創立記念日  
 15日・22日 志望者向け学校説明会 参加 看三123名 看二13名 検査16名 計152名  
 18日 第16回校務運営会議（第2期）  
 8月2日 職員厚生福利行事（淡路花博）  
 30日 臨地実習指導者研修会（看護学科）出席指導者81名

- 9月2日 臨床工学技士専攻科講師・実習指導者懇親会 出席講師・指導者24名
- 19日 第17回校務運営会議(第2期)
- 27日 学外学習(臨工1年生)
- 30日 臨床検査学科第4回スポーツ大会
- 10月11日 第8回学校法人理事会(第2期) 於本校
- 17日 第18回校務運営会議(第2期)
- 18日 防火訓練
- 21日・28日 志望者向け学校説明会 参加 看三65名 看二26名 検査27名 計118名
- 11月5日 学校祭
- 14日 全国臨床検査技師教育施設協議会秋期会議 於東京医科歯科大学
- 22日 第19回校務運営会議(第2期)
- 12月19日 第20回校務運営会議(第2期)
- 19日 日本看護学校協議会教務主任会議 於アルカディア市ヶ谷私学会館
- 22日 スケート教室(一臨) 於:醍醐スケート
- 1月23日 第21回校務運営会議(第2期)
- 2月20日 第9回学校法人理事会(第2期)
- 20日 第9回学校法人評議員会(第2期)
- 22日・23日 卒業認定会議
- 25日 第90回看護婦国家試験
- 3月4日 第47回臨床検査技師国家試験
- 4日 第14回臨床工学技士国家試験
- 5日 第1回学校法人理事会(第3期)
- 14日 卒業式
- 17日~21日 研修旅行(二臨2年生)野沢温泉スキー場
- 22日 第1回校務運営会議(第3期)
- 23日 第2回学校法人理事会(第3期)
- 23日 看護学科懇親会 於:平安会館 出席講師・指導者122名
- 29日・30日 進級認定会議
- 29日 第14回臨床工学技士国家試験合格発表
- 30日 第90回看護婦国家試験合格発表
- 31日 第13回臨床工学技士国家試験合格発表

## 学 生 関 係

### A 入学式

平成 13 年 4 月 11 日

学 科	入学を認定されたもの	
看護学科 三年課程	22 期生	44 名
看護学科 二年課程(全日制)	35 期生	44 名
看護学科 二年課程(定時制)	35 期生	44 名
第一臨床検査学科	28 期生	43 名
第二臨床検査学科	28 期生	14 名
臨床工学技士専攻科	3 期生	20 名

### B 在学生数

平成 13 年 4 月 11 日

学 科	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
看護学科 三年課程	44	53	40	-
看護学科 二年課程(全日制)	45	43	-	-
看護学科 二年課程(定時制)	45	48	43	-
第一臨床検査学科	43	34	40	-
第二臨床検査学科	14	21	31	31
臨床工学技士専攻科	21	-	-	-

### C 卒業式

平成 13 年 3 月 14 日

学 科	卒業を認定されたもの	
看護学科 三年課程	20 期生	35 名
看護学科 二年課程(全日制)	34 期生	44 名
看護学科 二年課程(定時制)	33 期生	31 名
第一臨床検査学科	26 期生	36 名
第二臨床検査学科	25 期生	34 名
臨床工学技士専攻科	3 期生	21 名

D 平成13年度入学試験応募状況

学 科	応募者数	受験者数
看護学科 三年課程	280	257
看護学科 二年課程(全日制)	171	165
看護学科 二年課程(定時制)	141	120
第一臨床検査学科	88	87
第二臨床検査学科	25	23
臨床工学技士専攻科	40	39

## 【京都府病院協同組合】

政治、経済が混迷する中で21世紀の幕が開きました。課題を抱えたままスタートを切った介護保険制度も1年を経過し、様々な問題を提起しながらも少しずつ軌道に乗りつつあるようです。

医療を巡る環境、協同組合活動を取り巻く状況は、かつて経験したことのない激しい変化の波にさらされています。いよいよ体力勝負といった段階に入り、組合周辺の業界にも再編の話が日常的に聞かれるようになっていきます。

協同組合では、毎日のきめ細かな営業活動を通じ組合員の皆さまのお役に立てるよう努める傍ら、新しい企画やシステムの導入にも積極的に取り組んでまいりました。

本年度から発足した介護保険関連については、ソフトの完成が遅れご迷惑をおかけした点もありましたが、ソフトの無料配布と講習会を実施しました。

また仕入先との電送による受発注システムが稼働し始めました。参画する業者がこれから拡大していけば、迅速な納品や省力化による商品価格の引き下げなど、大きなメリットが期待できます。

本年度は購買や保険の環境が厳しく、取扱数量は増加するものの金額が上がらないいわゆるデフレ現象の中ではありましたが、なんとか所期の目標を達成することができ、販売促進奨励金として総額2,000万円を還元させていただきました。

これも偏に組合員各位のご支援の賜と感謝いたしております。

ご報告かたがた厚くお礼申し上げます。

## 【京都府病院厚生年金基金】

“ ゆとりある老後 ” と “ 業界の発展 ” は共通の願い！

当病院厚生年金基金は、昭和55年11月設立から20年が経過し、平成12年11月には「基金設立20周年」を迎えました。

京都私立病院協会を母体とした、当基金加入事業所の事業主の皆様のご支援、ご協力をいただき、順調な発展を遂げております。

病院厚生年金基金は、加入員の「老後」の生活を支え、豊かにするために欠くことの出来ないものとなっています。

超高齢化、少子化、低成長時代に対応できるよう、当病院厚生年金基金が将来に向け確固としたものにするため、年金資産の効率的な運用に努力しております。

また京都私立病院協会(母体)の中で、「未加入病院」がなくなるよう、基金への加入の促進に努めます。

以下、平成12年度の事業概況は次のとおりです。

加入事業所数 78事業所

加入員数 男子 2,828名(前年度比138名増)

女子 8,871名(前年度比246名増)

合計 11,699名(前年度比384名増)

(年金経理)掛金収入と資産運用による収益受入金が入収入で、年金・一時金、業務委託費等が支出です。

信託資金 280億円(見込み額)

掛金収入 2,278,020千円(前年度比71,380千円増)

年金受給権者数 2,214名(前年度比104名増)

(内訳)・ 全額支給 2,152名(前年度比101名増)

・ 一部支給 44名(前年度比1名増)

・ 全額停止 18名(前年度比2名増)

年金支給額 493,492千円(前年度比38,737千円増)

一時金支給者数 544名(前年度比78名増)

一時金支給額 125,100千円(前年度比11,070千円減)

(福祉施設会計)掛金収入、業務会計からの受入金等が入収入で、体育館建設資金や音楽会及び基金合唱団に要する費用が支出です。資産合計は見込み額です。

資産合計 1,545,000千円(掛金、預貯金、土地等)

(融資取扱い状況)事業主や加入員に対しての融資斡旋。

事業資金

400,000千円(2件)

## 役員・代議員名簿

(任期：自平成12年11月20日 至平成14年11月19日)

選 定		
役職名	氏 名	所属事業所の名称
理 事 長	武 田 隆 男	(医財)財団康生会 武田病院
理事長代理	大 槻 秧 司	(医)亀岡病院
常 務 理 事	齊 藤 武 志	京都府病院厚生年金基金
理 事	安 藤 正 昭	(医)健康会 京都南病院
"	清 水 幸 夫	(医)清仁会
"	千 丸 博 司	(医財)社団洛和会
"	富 士 原 正 人	(医)医誠会 京都ルネス病院
監 事	蔭 山 弘	(医財)社団頌徳会
代 議 員	大 川 原 康 夫	(社)愛生会山科病院
"	梶 並 溢 弘	西京都病院
"	岡 本 豊 洋	(医)岡本病院
"	清 水 鴻 一 郎	(医)清水病院
"	相 馬 隆 臣	(医)相馬病院
"	都 倉 一 郎	(医財)社団一心会都倉病院
"	中 野 進	(医)啓信会
互 選		
理 事	板 坂 勉	(社福)宇治病院
"	大 澤 直	(医)大澤病院
"	城 守 勇 治	(医)三幸会
"	竹 元 正	(医)医仁会武田総合病院
"	中 野 種 樹	(財)長岡記念財団 長岡病院
"	山 田 雅 弘	(医)西陣健康会 堀川病院
"	吉 川 順 介	(医)社団貴順会 吉川病院
監 事	鵜 飼 五 郎	(医)社団 洛和会音羽病院
代 議 員	明 石 純	(医)愛友会
"	木 村 雄 二	(医)医修会 新河端病院
"	久保元 豊 美	(医)竜王会 小澤病院
"	土 居 本 繁	(医)大羽病院
"	狭 間 由 浩	(医)丹医会 園部丹医会病院
"	細 見 り つ 子	(医)和交会 太秦病院
"	安 田 則 次	(医)幸生会 室町病院

役職別 50音順

## 【京都中央看護専門学校】

京都中央看護専門学校では、昭和58年4月の開校以来18年目を迎え、平成13年3月6日には第16期68名の卒業式を行った。今日まで第16期生を含めて990名の看護婦・士を私病協の会員病院へ送り出した。

また平成13年3月は本校の設立母体である財団法人京都中央看護婦養成事業団設立20年にあたる。

さて、医療、特に病院を取巻く状況は、高齢化、医療の高度化、専門化、介護保険の導入などによって大きく変化しているが、看護学校の状況もその変化の中にあり、これからは少子化により受験生の確保と看護学生の質の問題が大きな課題になっている。看護系大学が多く生まれる中で、看護専門学校のこれからの道を考えざるを得ない状況でもある。

本校では、病院のニーズを把握しつつ、「魅力的な看護学校」をつくり、すぐれた看護婦を養成することが重要だと考え学校運営を行ってきた。人間性豊かな卒業生を送り出すために、カリキュラムでは基礎分野での選択制や様々のゼミを導入して学生への効果のある教育を目指している。

また保健婦課程の検討会を継続して行い、より質の高い看護婦・士の育成を検討している。そして、学校ニュース『コスモス』を発行し卒業生、病院、高等学校に本校の情報を提供してきた。

### 主な学校行事

平成12年

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 4月10日     | 前期授業開始                |
| 11日       | 入学式(第8期生 1年生80名)      |
| 12,13,14日 | 新入生オリエンテーション          |
| 14日       | 第1回実習指導者会議            |
| 17~28日    | 老年実習(3年生)             |
| 5月8日      | 各論実習開始(3年生)           |
| 17日       | ナイチンゲル祭               |
| 26日       | 第69回事業団理事会            |
| 6月7日      | 防災訓練(1年生・京都市市民防災センター) |
| 15~16日    | 宿泊研修 京都府ゼミナールハウス      |
| 22日       | 学校説明会(私病協対象)          |

- 23日 学校説明会（高校進路指導者対象）
- 7月11～13日 基礎看護 実習（1年生）
- 15日 看護の日 学校公開 61名参加
- 16日 夏期休暇開始
- 8月7日 夏期研修会（教員 実習指導者）
- 29～9/14日 基礎看護 実習（2年生）
- 31日 夏期休暇終了
- 9月6～7日 看護研究発表会（3年生）
- 8日 講演会「救急アセスメントについて」（同窓会共催）
- 10月5～13日 前期試験
- 18日 京都府看護学校親善バレ-ポ-ル大会
- 24日 戴帽式（1年生）
- 31日 第70回事業団理事会
- 11月1～9日 平成11年度推薦入学願書受付
- 8日 奨学金支給病院懇談会
- 10日 秋期レクリエ-ション（運動会）
- 11～12日 学校祭（コスモス祭）
- 18日 推薦入試
- 20日 学校運営会議（入試合格判定、他）
- 24日 推薦入試合格発表
- 12月6日 実習指導者会議・講師会・合同懇親会 86名
- 8日 各論実習終了（3年生）
- 18日 冬期休暇開始
- 18～1/6日 一般入試願書受付
- 平成13年
- 1月7日 冬期休暇終了
- 15～16日 一般入試
- 19日 学校運営会議（入試合格判定他）
- 20日 一般入試合格発表
- 2月8日 開校記念日
- 10～17日 後期試験
- 26～3/2日 基礎看護 実習（1年生）
- 26日 看護婦国家試験
- 3月2日 卒業記念講演 平田雅子（神戸看護短大）

- 6日 第16期卒業式
- 7日 卒業を祝う会(京都センチュリーホテル)
- 25日 春期休暇開始
- 28日 第71回事業団理事会
- 30日 看護婦国家試験合格発表

### 学生数

	1年生	2年生	3年生	計
平成12年4月	80	86	74	240
平成13年3月	76	84	73	233

### 人事異動

#### 1 事業団役員異動

- 新任 佐野 豊 副理事長 平成13年4月1日
- 辞任 橋本 勇 副理事長 平成13年3月31日

#### 2 事業団役員(平成13年4月1日)

- 理事長 大槻秧司 亀岡病院理事長
- 副理事長 佐野 豊 京都中央看護専門学校校長
- ” 清水 紘 嵯峨野病院理事長
- 常務理事 島田崇志 京都中央看護専門学校事務局長
- 理 事 明石隆夫 京都市保健福祉局保健衛生推進室部長
- 安藤正昭 京都南病院顧問
- ” 板坂 勉 宇治病院事務局長
- ” 児島幸照 長岡病院院長
- 大賀興一 第二岡本総合病院院長
- ” 清水幸夫 シミズ病院理事長
- 武田道子 武田病院理事長
- ” 中野博美 京都きづ川病院理事長
- 監 事 大川雅司 公認会計士
- ” 橋本博道 京都市保健福祉局保健衛生推進室地域医療課長

#### 3 職員

- 採用 伊戸貴恵 臨時教員 平成12年4月24日

退職	阿部 真理	専任教員	平成 13 年 4 月 1 日
	山田美恵子	非常勤教員	平成 13 年 4 月 1 日
	伊戸 貴恵	臨時教員	平成 12 年 9 月 24 日
	上村 真紀	非常勤教員	平成 12 年 9 月 30 日
	大沢みどり	専任教員	平成 13 年 3 月 31 日

# 資 料



## 資料 1

平成 12 年 12 月 27 日

京都府保健福祉部長 様

京都府医師会 会長 横田 耕三  
京都府病院協会 会長 藤田 洋一  
京都私立病院協会 会長 武田 隆男

### 京都府救急医療情報システムの更新にあたっての要望

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は京都府の救急医療行政の推進に格別のご努力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、京都府救急医療情報システムは、昭和56年4月に整備され、平成6年4月には複雑化する救急医療需要に対応するため、その内容や機器などが大幅に見直され、情報精度の向上とリアルタイムな特殊診療情報の提供などの充実が図られました。以降6年が経過し、情報技術の進展もあり、更なる向上が求められるところであります。

平成14年度更新予定の京都府救急医療情報システムの整備の際には、京都府における救急医療の重要な役割を担う同システムの今後につき、下記の点に十分ご配慮いただきますことを要望させていただきます。

#### 記

- 1 京都府救急医療情報システムの更新に際しては、その機能が十分に発揮できるような内容にしていきたい
- 1 同システムの更新に際しては、関係諸団体との調整を図り、その意見を十分反映していただきたい

## 資料 2

2000年6月10日

自動車損害賠償責任保険審議会  
委員長 殿

### 自賠責保険について改善の要望

向夏の候、貴会におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

自賠責保険における様々な問題に関し、貴会では熱心にご審議いただいておりますことは承っております。

さて、現在の自賠責保険や自動車保険の制度下においては、改善されるべき問題がいくつかあると考えますので、今回改めて要望させていただきます。

ご承知のように、自賠責保険制度は被害者保護を第一の目的としたもので、いかなる人身事故の場合であっても必要な補償が確保されることになっています。ところが、「任意一括払い」により、任意保険会社から一方的に過失相殺が適用されたり、自賠責限度内の損害であっても、自賠責保険に直接請求する場合よりも支払いが遅れたり、減額が行われたりして、被害者や医療機関が不利益を被ることが少なからずあります。医療機関において被害者の過失分が減額されることは、苦しい経営環境に置かれている多くの民間救急病院の運営を、さらに圧迫する要因ともなっています。

自賠責保険限度額を超えることが見込まれるケースでは、保険会社は強引に健康保険の使用を求め、自賠責の範囲内に止めようとし、自賠責保険制度の運用のなかで、任意保険会社の負担を抑えるために健康保険が使用されるべきではないと考えます。

また、健康保険が使用された場合、当然おこなわれるべき自賠責保険、あるいは加害者への求償がどの程度まで厳格に実行されているかの疑問も残ります。さらに、第三者行為による交通事故であっても、当事者が物損事故として届け出をした場合には、自賠責保険への求償はなされないと聞き及んでいます。これらのことが、近年問題になっている健康保険財政を圧迫する一因とも考えられます。

以上の問題は、現在の自賠責保険制度を改善することで、いくらか解決できるものと思われるので、貴会におかれましては、本要望をご検討いただきたく、お願い申し上げます。

#### [ 要望事項 ]

- 1 自賠責保険の補償限度額のうち、わずか120万円に設定されている「傷害に対する補償限

度額」(休業補償、慰謝料、治療費)を引き上げられたい。

現在の限度額は設定されてから20年据え置かれたままとなっていますが、この間、世間の賃金物価水準は倍以上になっており、また健康保険の診療報酬改定は幾度となく実施されています。ある程度の入院治療が必要な傷害を想定すれば、120万円の上限は現状にそぐわない額であると言えます。この縛りによって十分な救済が受けられない重度な被害者が存在します。自賠責保険には相当の累積運用益(1997年度末で自賠特別会計約1兆5500億円、損保会社約2300億円)があると言われており、限度額引き上げをおこなうことは可能と思われま

- 2 同じく現在「傷害に対する補償限度額」のなかに含まれている休業損害、慰謝料と治療費に対する補償を別枠とされたい。

被害者の治療に必要な費用と休業損害や慰謝料とは全く別の補償であり、限度額の枠内でせめぎ合うべきものではありません。この改善によって、被害者はより安心して療養に専念することができます。

- 3 「任意保険一括」の取り扱い事案であっても、自賠責保険の限度額までは自賠責と同様に、厳密な過失相殺は適用しないよう改められたい。

自賠責保険では被害者保護を目的とするため厳格な過失相殺は適用されませんが、任意保険会社による一括払い方式では、自賠責の傷害補償限度内でも過失相殺が適用されてしまい、結果的に健康保険の使用が強制されることになります。

### 第3号議案

## 平成13年度 社団法人京都私立病院協会 事業計画に関し承認を求める件

### 本年度事業計画の重点

民間病院は地域医療において大きな役割を担っている。民間病院の経営の安定確立こそが地域医療の水準を高めるためには必要であることを各方面に訴える。

患者と医療従事者の安全対策を優先課題と位置付ける。そのために情報の収集や開示を図ると共に良質な医療従事者の育成をおこない、倫理の高揚に努める。

高度・先進化に伴い変化する医療と社会の要請に応えるため、医療の質及び病院機能の向上に努める。

介護保険制度における様々な問題を的確に把握しその改善を求める。また、医療と介護の整合性を検討するなかで、今後の高齢者医療制度の在り方について提言をおこなう。

病院にとって不当な損税となっている消費税並びにその他の税制度の改正を求めていく。

### 【総務部】

#### 1 日常活動の充実と会員への積極的働きかけ

職種職務別組織活動、地区別組織活動を充実させ、会員相互の連携と組織の体質強化を図る。

職種職務別組織

- a. 理事長・院長会    b. 医師部会    c. 事務長会    d. 婦長部会    e. 薬局長会  
f. 放射線技師部会    g. 栄養士部会    h. 臨床検査部会

地区別組織

- a. 京都市域    b. 北部地区    c. 南部地区

会員に必要な情報の迅速な収集・整理・提供に努め、広報活動の一層の充実を図る。

病院の質、機能向上及び医の倫理の高揚にむけて研究・研修をおこない、第三者による機能評価について積極的に活用を図る。

医療従事者の確保と質の向上対策に努める。

京都保健衛生専門学校と京都中央看護専門学校を充実させ、看護婦、臨床検査技師、臨床工学技士の養成に力を注ぐ。

医療従事者無料職業紹介事業の充実・発展に取り組む。

関連団体との親密な関係を維持し、事業の発展に寄与する。

京都府病院協同組合

京都府病院厚生年金基金

京都保健衛生専門学校  
京都中央看護婦養成事業団

## 2 対外活動の推進

京都における他の病院団体との連携強化を図る。

近畿病院団体連合会の充実発展に寄与する。

日本医師会をはじめ四病院団体協議会(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会)等との連携を深める。

全国病院団体連合に積極的に参加する。

行政やマスコミをはじめ、広く社会・地域などへ働きかけ、医療の実情の理解を得るよう努めるとともに、民間病院の果している機能とその役割を周知させる。

## 【保険部】

### 1 医療・介護保険制度の検討

医療法改定・診療報酬改定にかかわる諸問題について検討し、対応する。

京都府保健医療計画の実施に向けて積極的に提言をおこなう。

医療保険制度・介護保険制度について周知を図るとともに、自己負担をはじめとする諸問題について提言をおこなう。

病院と介護保険施設・訪問看護ステーションやその他の福祉施設等との情報交換や連携を図る。

### 2 医療保険制度上の諸問題への対応

良質な医療および療養環境整備のため、民間病院への補助金の拡大や診療報酬の改善を求める。

社会保険の諸基準の取得・維持・調査等について、会員への積極的な助言・指導、関係団体との調整をおこなう。

政管健保生活習慣病予防健診指定が民間病院に広く開放されるよう引き続き取り組むとともに、その運用の公平化を求める。

DRGやICD 10等への対応

### 3 次期介護保険制度改定への取り組み

## 【地域医療部】

### 1 救急医療ならびに休日時間外診療体制の推進

京都府内における2次病院群輪番体制の更なる充実をめざす。

各救急病院の質的向上を図り、2次救急と3次救急の分担と連携をめざす。

精神科救急・特殊救急体制の確立を図る。

自動車保険が適正に運用されるように関係各方面に積極的に働きかける。

## 2 感染症対策の推進

感染症問題について各病院の情報交換などをおこなうことにより、感染症対策の向上を目指す。

## 3 安全対策の推進

事故防止研究会において医療事故の原因調査をおこない、事故防止対策の啓蒙をおこなう。

## 4 カルテ開示など情報開示についての検討

## 5 情報のネットワーク化の推進

### 【経営部】

#### 1 病院経営に関する会員間の情報交換と経営改善にむけた活動の推進

アウトソーシングに対してその有効利用を検討する。

薬事委員会を開催し、医療品購入等に関する情報交換をおこない、必要に応じて業者交渉等をおこなう。

購買担当者会議を開催し、医療機器、医療資材などの調達に関する情報交換をおこなう。

入院環境整備委員会を開催し、入院環境の向上を図る。

感染性廃棄物処理問題委員会を開催し、病院の廃棄物処理や環境問題について検討をおこなう。

#### 2 病院の資金確保対策

民間病院に対する国庫ならびに京都府の補助制度の周知と活用を推進する。

「京都府救急告示病院等運転資金融資斡旋制度」の運用に向けて、条件の整備に取り組む。

#### 3 消費税をはじめ事業税、法人税、相続税等の租税問題について研究し、改善を関係機関に働きかける。

### 【学術研修部】

#### 1 京都病院学会の開催

第36回京都病院学会を開催し、会員の研究成果を発表する場として、より一層の充実を図る。

## 2 教育研修の開催

新入職員を対象とした教育訓練初級コースを開催する。

看護婦(士)の卒後研修の充実をはかり、看護職員の質の向上に努める。

看護補助者・介護職員の教育研修に取り組む。

職種別(薬剤・臨床検査・放射線・栄養・医療事務)の教育研修をおこない、優秀な職員の育成に努める。

中堅幹部職員を対象とした研修会を開催する。

事務長、総婦長の教育研修会を開催する。

保健医療管理者養成講座の充実を図る。

その他必要と思われる研修等の開催について、検討し実施していく。

## 3 医療倫理の高揚のための研鑽をおこなう。

### 【厚生部】

#### 1 会員間の交流と親睦を深める事業の実施

第37回病院対抗野球大会を開催する。

第24回病院対抗女子バレーボール大会を開催する。

各種文化活動を企画し、開催する。

#### 2 会員施設の職員の福利厚生対策の向上への取り組み

京都府病院厚生年金基金の充実のため努力する。

職員を対象とした融資制度の推進を図る。

第 5 号議案

役員を選出に関する件

第 6 号議案

**選挙管理委員・予備選挙管理委員の  
選出に関する件**

第7号議案

## 顧問の委嘱に関する件